



第 87 号

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会  
 〒105-0014 東京都港区芝 2-5-19TAビル  
 電 話 03 (5730) 1016  
 F A X 03 (5730) 1017

http://www.tokkotai.or.jp  
 振替口座 00140-6-59580

編集人 飯 田 正 能  
 発行人 羽 淵 徹 也  
 印刷所 ヨシダ印刷株式会社

目 次

第32回陸海軍特攻隊合同慰霊祭…… 1  
 未曾有の災害の中での「特攻慰霊祭」…… 4  
 奉祝「建国記念の日」…… 6  
 「建国記念の日」に思う…… 7  
 嗚呼悲惨、惨の極「3月10日と3月11日」…… 10

平成22年大津島「回天追悼式」に参列して…… 15  
 都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭に参列して…… 17  
 世界の共通語となった日本語 勿体無い「もったいない」…… 18  
 空挺作戦を発令した指揮官の苦衷と決断…… 20  
 特集・特攻インタビュー(第4回) 陸軍航空特攻 久貫兼資氏…… 24  
 精神復興―心の始末―…… 38  
 靖國神社に鎮まり給う神々…… 40  
 特攻隊を語り継ぐ 劇団「夜想会」…… 41  
 3月26日の陸海軍特攻隊合同慰霊祭に参加した劇団員たちの「感想文」…… 43  
 平成22年度事業報告…… 44  
 事務局からの報告等…… 46

第32回陸海軍特攻隊合同慰霊祭

平成23年3月26日(土) 11時～12時  
 於 靖國神社拝殿・本殿

式 次 第

- 国歌斉唱 (トランペット田櫓雅之)
- 修祓・献饌 (サクソフォン鈴木隆春)
- 祝詞奏上
- 祭文奏上 理事長 山本 卓眞
- 献 吟 一誠流 石橋 一歌他
- 奉納演奏 世田谷コールエーデ合唱団 指揮 大穂 孝子
- 「日本の歌(三題)」より 斉 唱 (全員) 「海ゆかば」 (トランペット・サクソフォン 吹奏)
- 昇殿参拝 参列者一同 (トランペット「国のしずめ」)
- ◇ ◇ ◇
- 昭和20年3月11日ウルシー泊地で戦死 大君の勅かしこむ丈夫は あだし空母に碎け散るべし
- 第六十振武隊 若杉 正喜
- 5月4日沖繩周辺洋上で戦死 靖國の桜となりて薫る日の 誇りを胸に秘めて飛び立つ 菊水部隊特攻隊 根尾 久男
- 吟 石橋 一歌
- 笛 逢坂 龍信

## 祭文

本日茲に、御遺族を始め関係者一同が靖國神社の御社頭に集い、第三十二回陸海軍特別攻撃隊合同慰霊祭を、平和のうちに執り行えますことに感謝申し上げますとともに、謹んで在天の御霊に申し上げます。

我が国は今、去る十一日に発生した東北関東大震災という未曾有の災害に見舞われております。東北地方太平洋沿岸を中心に、地震、津波のため一万人以上の国民の命が奪われ、国民の多くの財産が失われました。原子力発電所の事故も発生しております。これら最悪の事態に、世界の多くの国々からの救援も得て、国民が一同となって、復興に取り組んでいくとあります。

六十六年前、我が国の存亡の危機に際し、皆様方は一身を擲って、敢然と目前の国難に当たり、希望を未来に託して散華されました。私達は

子々孫々、皆様のことを語り伝え、学び、そして感謝の気持ちを捧げてまいらなければなりません。ただ今、悲しみや困難を乗り越えて災害復興に取り組んでいる現地の人々の気持ちも、皆様に通じる精神であると思います。必ずや復興は成し遂げられるであります。

戦後六十六年の間、私達は、国の再興、発展のために努力をして、その結果、物質的、経済的には世界でも稀に見るような目覚ましい復興を遂げてまいりました。しかしながら、世界は今もおお、民族、宗教、資源、核、テロや海賊などの問題が絶えません。我が国周辺地域においても、北朝鮮による砲撃、中国による軍拡と尖閣、東シナ海への進出、ロシアによる我が北方領土領有宣言等、不公正な事態が次々と生起しております。一方、我が国においては、政権交代後、国の骨幹をなす分野において、混迷が続き、国を揺るがす規模の災害発生等とも相まって、我が国の国際的地位が大きく揺らいで

いるのが現実であります。

我が国の今の混迷は、自然災害は別として、戦後復興の過程において、物や金に捉われ過ぎ、本来の日本精神を見失ってしまったからかもしれません。今や、日本の価値観は、日本古来の教えに大きく反する方向に偏ってしまいました。これは本当の意味の精神的敗北であります。ここから再度立ち上がるためには、大きな苦難を覚悟しなければなりません。現在の大自然災害からの復興活動は、ある意味で私達に、この再起のための苦難を与えてく

れているのかもしれない。今一度、日本民族が我が風土の中で育んできた「バランスのとれた和と武の精神」に立ち返るために、私達は、一致団結して、目前の復興活動に邁進しなければなりません。そのために、特別攻撃隊の皆様から、現在の苦境を乗り越えていくための力をお借りしなければなりません。

今までの協会は、この一月四日に、国から「公益財団法人特攻隊戦没者慰

霊顕彰会」として移行認定されました。会員の高齢化が進み、会員数の減少を来しておりますが、志のある皆様と力を合わせて活動を継承してまいります。

私達は、皆様方への慰霊活動を通じて謙虚に自分を磨き、我が国を皆様方の志に恥じない国にするための努力を続けてまいり所存であります。このことこそが、皆様方に対する何よりの御供養になると信ずるからであります。ここにお誓い申し上げます。

在天の御霊、どうか私共をお導きください。そして、日本復興のため尚一層の御加護を賜りますよう、心からお願い申し上げます、祭文奏上を終わります。

平成二十三年三月二十六日

公益財団法人

特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長 山本 卓真

◇ ◇ ◇

3月26日(土) 11時より靖國神社において、当顕彰会恒例の第32回陸海軍特攻隊合同慰霊祭がしめやかに斎行さ

れ、御遺族28名を始め来賓、戦友、一般会員等合わせて230余名が参集して、英霊奉慰の誠と日本再生・復興への誓いを捧げた。

去る3月11日(金) 14時46分、東北地方太平洋沖で発生したマグニチュード9.0の巨大地震は、東北関東一帯を激しく揺るがし、直後発生した、観

測史上最大とも言われる大津波は三陸海岸から房総半島に至る延長500キロの海岸一帯に襲いかかり、惨憺たる大災害を発生せしめ、加えて、東京電



力・福島第一原子力発電所の津波による事故は、深刻な放射能被害をもたらす、国内のみならず、世界中から注目される大災害となっている。

その日東京も震度5強から6弱の大揺れに遭い、靖国神社に程近い九段会館ホールの天井が崩落し、卒業式最中の専門学校生ら30数名が負傷し、重傷者のうち2名の犠牲者が出た。また、靖国神社の境内、第二大鳥居前の大石灯籠の笠石がずり落ちる等の被害があったが、社殿等の被害がなかったのは幸いであった。しかし、その後も毎日のように、日に数回の余震が続き、被災地の苦難が思い遣られる日々である。

その日から2週間、例年ならば、境内の桜も咲き揃っている頃であるが、巨大地震の影響もあつてか、3月も下旬というのに、寒冷の日が続き、桜の花もまだ蕾の状態で、快晴ながら風も冷たく、気温8度以下の寒い日となつた(その後、境内の基準木が数輪の花を付けて、開花宣言がなされたのは、3月28日、満開となつたのは更に10日後の4月8日頃であった)。

「離れ離れに散ろうとも／花の都の靖国神社／花の梢に咲いて会おう」と誓い合つて出陣した英霊の御心を偲び、この合同慰霊祭は例年3月下旬、



国歌斉唱

靖国神社の桜の花が咲く頃に齋行されてきたが、今年はどうしたことか開花が遅れ、英霊には申し訳ない氣もした。神社側でも早速、境内での桜の宴は遠慮されたい、とのおふれを出した。古

来、日本人の美德とされてきた「惻隱の心」つまり、人の心を思い遣り、自らも忍び難い心情、仁の心というものであろうか。2万8千名にも上る犠牲者とその家族、家屋や家財を流失したり、原発事故の危険から、避難所での苦しい生活を強いられている多くの人達や、危険を冒して捜索・救難活動等に当たる自衛隊員を始め、多くの人々に対する思い遣りの心から、自爾ムー



山本理事長祭文献上

献吟 石橋・逢坂両氏

ドが広がったものと思う。当慰霊顕彰会では、慰霊祭は予定どおり齋行するが、靖国会館での直会(総会・懇親会)は中止とし、その会費として払い込まれた5千円を、当日受付で、参加申込み者に現金で返還した。更に、参集所では、震災義捐金の募集をしたところ、忽ち9万6千余円の浄財が寄せられ、早速、日本赤十字社へ送金した。

11時から拝殿で齋行された合同慰霊祭は、トランペットの伴奏による国歌斉唱に始まり、修抜・献饌・祝詞奏上の神儀に続き、山本理事長が祭文(別掲)を奏上し、「今、我が国は、東北

関東大震災という未曾有の大災害に直面しているが、66年前、我が国存亡の危機に際し、一身を擲ち、敢然として国難に当たり、希望を未来に託して散華された特攻勇士の方々の崇高な精神に学び、悲しみや困難を乗り越えて災害復興に取り組まなければならない。」また一方、「我が国を取り巻く国際情勢は極めて厳しいものがあり、国の安全は脅かされつつある」、「戦後、我が国は焦土の中から目覚ましい復興をなし遂げ、経済的、物質的には豊かになつたが、本来の日本精神を見失い、日本古来の伝統や教育に反する方向に偏つてしまった」、「この度の大災害は、天

の与えた大試練と心得え、一致団結、あらゆる苦難を乗り越えて、経済的、物質的な再建・復興と共に、日本精神の再生・復活を図り、必ず、我が国を護り抜くことを誓い、英霊の御加護を願った。



献歌・世田谷コールエーデ合唱団

献吟の声は、朗々として神前に木霊し、惻々として胸を打つ。世田谷コールエーデ合唱団による献歌（日本の歌（三題）より）また、美しく、哀しく、切々として胸に迫る。最後は、寥々と響くトランベットの伴奏に合わ



合唱指揮・大穂孝子先生

せて、一同「海行かば」を唱和する。次いで、参列者全員、本殿に昇殿して参拝し、トランベットの演奏「国はずめ」に合わせて黙祷を捧げた。滞りなく慰霊祭を終えて、参集殿を退出すれば、そこは、桜こそ未だ咲き競っ



「海行かば」斉唱

てはいないが、清明の気溢れる神園、参拝者の姿も多く、遊就館前の「特攻勇士之像」にも献花されて、多くの参拝者が碑前に佇み、祈りを捧げる姿が見られた。（飯田 正能記）



トランペット・田櫛雅之氏 サクソフォーン・鈴木隆春氏

## 未曾有の災害の中での

### 「特攻慰霊祭」

有志 石垣 貴千代  
（元東洋大学教授）

「編注・筆者は、元東洋大学教授で、当顕彰会の行事にも有志として参加し

ておられる。倉形桃代評議員とは「神雷部隊」の戦友会などで面識があったが、先生がインターネットの個人ブログ「むぎぶえの日記・平成23年3月30日」に掲載された表題の記事に感動した倉形評議員が、先生に連絡を取り、当会報への転載の御承認をいただいた

ものである。」

◇ ◇ ◇

3月26日、靖国神社で「第32回陸海軍特攻隊合同慰霊祭」が斎行された。例年は慰霊祭の後、靖国会館で総会があり、懇親会で賑やかに喋りを楽しむのだが、今年はそれは取り止めに

なった。大変な手間と思うが、受付で懇親会の費用は一人一人に返された。しかし、多くは退出の時、募金箱に入れられて災害地支援の浄財となった。御本殿を望む拝殿に、二百数十名の御遺族、関係者、会員、有志の参列者が、折りたたみの椅子に掛けて、静かに心

を籠めて特攻戦没者に祈りを捧げた。取り分け3月11日の巨大地震以来日本を震撼させている大災害に対して英霊の御加護を祈ったのである。

3月26日は好天で空も日光も透き通るように輝いていたが、本当に寒かった。拝殿は御簾も壁代も巻き上げられて素通しの広間である。背筋を伸ばして寒さに耐える緊張感も良い。背後の階で参拝者が拍手を打つ音が時折聞こえてくる。

起立して国歌を斉唱し、御祓いを受けて御本殿の御霊の前に海山の幸が供えられる間は、鈴木隆春氏のサキソフオーンで「山の幸」が演奏された。祝詞の奏上があり、続いて山本卓眞理事長が祭文を奏上された。国難に殉じた特攻戦没者に、今直面している国難を訴えつつ、これまでの我々の怠りを詫びて、再起と真の復興を誓い、在天の御霊に御加護を願う切なる祭文であった。

この合同慰霊祭では、毎年献吟と奉納演奏がある。献吟は「靖國の桜となりて薫る日の 誇りを胸に秘めて飛び立つ」若杉正喜(第60振武隊・昭和20年5月4日沖繩周辺洋上で戦死)と「大君の勅かしこむ丈夫は あだし空母に碎け散るべし」根尾久男(菊水部隊隊特攻隊・昭和20年3月11日ウルシー泊

地で戦死)の遺詠が石橋一歌氏の歌と逢坂龍信氏の笛で吟じられた。笛の演奏が始められた時、ふと伊勢神宮か明治神宮の参道にいるような不思議な気持ちになった。これは何だろうか。笛の音が日本の原点ともいべき風景を現前させたのかもしれない……。

御遺族でなくとも、頭の中に目的や義務を置かなくとも、あの場に座つたらよいと思う。私たち大和島根に住む者の、二千年の共感が今ここにあることを実感するのではないだろうか。

奉納演奏は、世田谷コールエーデ合唱団の歌で、指揮をされるのは大穂孝子さん。最後の連合艦隊司令長官を務められた小澤治三郎海軍中将のお嬢さんである。兎追いしかの山……で始まり、次が「浜辺の歌」、それから「叱られて」、終わりは「如何におわす父母」と「故郷」の2番、そして、志を果たしての3番が輪唱の構成で歌われた。

現在の巨大災害に直面して、この二千年の貴重な魂を支えに、私たちは「生死」を生きているに違いない。他に生きようも無く、振る舞いようも無からだ。

20歳前後で亡くなった特攻隊員の本当の心の形に添っているようで、涙が止まらなかった。最後に、トランペットとサキソフオーンの演奏に合わせて、全員で「海ゆかば」を斉唱し、順に昇殿参拝をした。その間、「国のしずめ」がトランペットで演奏されていた。素晴らしい慰霊祭だった。

両陛下が避難所を訪問されたことを報じていた。あの優しいお顔で、膝をついて話し掛けられているお写真があった。御所では、停電を強いられている人々を思い遣られて、同じように電気を切る生活をされておられるのだそうだ。明日の新聞にもっと詳しく載るだろう。「朝日」と「産経」の扱いの違いを見るのも面白い。

う論旨であった。原文は知らないが、日本人にとつて、今、節電に協力するのは当たり前だし、派手な事に気が進まないのも当然だ。被災した方々を思うと胸がいっぱいになる。それが不合理でも、自然な気持ちに逆らつて経済効果を考えるなんて出来はしないと、違和感があった。

(個人ブログ「むぎぶえの日記 平成23年3月30日」より転載)

若い方もかなり見えていたが、このような鎮魂の儀式に、戦争を知らない多くの方々が参加されることを願っている。大きな発見があるに違いないのだ。何の発見?と人は問うだろうか。

3月30日の「産経新聞」では、ワシントン・ポストのちよつと違った記事が紹介されていた。日本は自粛の強迫観念に襲われたというタイトルで、犠牲者への弔意から日常生活の様々な活動を自粛し始め、国民経済への悪影響が懸念されると述べている。桜の花見、高校野球の応援、都知事選挙の音声、トイレの座席の暖房も止め……等、よく調べて、無意味な過剰自粛」とい

# 奉祝「建国記念の日」

「国民の祝日に関する法律」(昭和二三年七月二〇日法律第一七八号) 第二条「祝日の内容」第三号には、建国記念の日は政令で定める日(二月十一日)とあり、この日は「建国をしのび、国を愛する心を養う」と定められている。同号は、昭和四一年六月二五日法律第八六号により改正されたものであり、その附則第2項で、改正後の第二条に規定する建国記念の日となる日か定める政令は、この法律の公布の日から起算して六月以内に制定するものと

するとされ、それは、昭和四一年政令第三七六号により「建国記念の日は、二月十一日とする」と定められたのである。また、それに先立ち、改正法律附則第三項では、「内閣総理大臣は、改正後の第二条に規定する建国記念の日となる日を定める政令の制定の立案をしようとするときは、建国記念日審議会に諮問し、その答申を尊重しなければならぬ」とあり、同審議会の答申に基づき、民主的な手続を経て定められたものである。当時その制定に当たっては、社会党や共産党などから日本国憲法が施行された五月三日こそ建国記念日にふさわしいなどと主張さ



## 奉祝皇紀二千六百七十一年 建国記念の日

**平成二十三年 二月十一日(祝・金)**

**奉祝記念行事**

**会場** 明治神宮会館(午後一時～二時)  
(渋谷区代々木神宮町一)

**内容** 奉祝中央式典  
記念講演  
「徳律の国日本」  
講師・井尻千男氏(元駐米公使館長)

**奉祝パレード** 午前〇時～午後〇時三十分  
**原宿表参道周辺**  
(明治神宮・表参道・青山通り・新大塚通り・明治公園)

皇紀二千六百七十一年(西暦二〇一二年)の奉祝行事は、皇紀二千六百七十一年(西暦二〇一二年)の奉祝行事とさせていただきます。

日本の建国を祝う会  
日本国憲法制定委員会 事務局

れたが、当時の世論調査でも紀元節の復活を望む国民は、実に九割にのぼったという。その紀元節に関し、我が国最古の正史である「日本書紀」には、初代神武天皇が橿原宮で即位された日を「辛酉年の春正月の庚辰の朔に天皇、橿原宮に即位す。是歳を天皇の元年とす」と記している。これを明治時代になって太陽暦に換算して算出されたのが、二月十一日という日付けである。そもそも国の成り立ちにおいて、正確にその日を特定できるのは、アメリカ合衆国のように歴史の浅い国に限られるのであって、日本のように、歴史が古く、しかも自らにして国家が形成されたような国で、その日を科学的に特定することは不可能に近い。我が国においては、最古の正史である日本書紀の記述によって建国の日を定め、苦難と栄光に満ちた建国の偉業を偲び、肇国以来今日まで、連綿と百二十五代、絶えることなく天皇を中心に栄えてきた、世界に比類のない我が国体と我が国の歴史、文化、伝統に思いをいたし、これが継承、発展を祈念することに、建国記念日の意義があると考えるのである。ところが、こともあろうに、この「神武建国」「天皇陛下万歳」に異議を唱える政府後援の国民式典と「神武建国」「天皇陛下万歳」を守ろうとする民間主催の「奉祝中央式典」が長年別個に開催されてきた。そして、政府後援の国民式典の方は、平成19年から取り止めとなったままである。民間団体「日本の建国を祝う会」(会長・小田村四郎元拓殖大学総長)主催による「建国記念日奉祝中央式典」は、今年も二月十一日の午後、明治神宮会館において、30数箇国の外交団を始め超満員の千数百名が参列して盛大に開催され、若者や女性の参加も多く、熱気に溢れていた。小田村会長は「今、日本の安全保障体制は動揺している。北方領土問題をめぐるロシアの強硬策、尖閣諸島領海内での中国漁船衝突事件をめぐる政府の対応、普天間基地をめぐる日米安保体制の揺らぎ、日韓併合百年に際しての自虐史観に則った菅総理談話の発表、内政面では、外国勢力の干渉を招く永住外国人地方参政権付与の問題や家族崩壊の危機をもたらす選択的夫婦別性制度の導入問題など日本解体系案の続出等、国土保全や安全保障上極めて緊迫した状況にあり、かつ、日本の伝統的文化や精神の破壊をもたらす危機に直面している。この時に当たり、皇紀二千六百七十一年の建国記念の日を迎えて、我々日本人は、神武創業のいにしえを偲び、建国の理想と精神に立ち返り、皇室を中

心に仰ぐ日本の国体と伝統に対する誇りと自信を換気しなければならぬ」と力強く決意を述べた。

奉祝行事の第二部が始まる前には、関東小鉄太鼓保存会の男女の皆さんによる勇壮な奉祝太鼓の演奏があり、続いて、前記各大学吹奏楽部によるマーチングコンテストが中止となった結果、前年度のコンテストでパフォーマンス賞に選ばれた帝京大学と最優秀賞に選ばれた駒澤大学の各吹奏楽部がそれぞれ見事な演奏を披露した。

第二部では、「僥倖の国日本」と題して拓殖大学名誉教授井尻千男先生による記念講演があったが、先生は、日本という国は、世界にも稀な自然環境に恵まれた国であるとともに、遠く神話に起源を持つ皇室が現代においても国の中心であり、神武以来百二十五代、二千有余年にわたり、連綿として絶えることなく、和の精神を以て国民を統合し、伝統を守り、外国の文化を取り入れつつ、独自の文明を築き上げてきた世界唯一の国であり、民族である。これは正に僥倖の国というべきであり、我々日本人は、この国に誇りを持ち、この国の伝統と文化を守り育て、永遠に継承していかなければならないと、諄々と語られた。

### 「建国記念の日」に思う

2月11日は、「建国記念の日」である。戦前私どもの子供のころは、この日を「紀元節」と称し、年間の五節句と同様、大変めでたい国の誕生日として祝われた。因みに五節句とは、人日（じんじつ正月七日）、上巳（じょうし三月三日）、端午（たんご五月五日）、七夕（しちせき七月七日）、重陽（ちようよう九月九日）をいい、季節の節目のお祭りの日でもあった。

校して式典に参列し、君が代と「紀元節の歌」を斉唱し、校長先生の講話を拝聴した後、紅白の饅頭を頂いて帰ったものである。

建国記念の日の奉祝中央式典では、毎年戦前同様、君が代と共に懐かしい「紀元節」の歌を斉唱している。また、嬉しいことに紅白の饅頭まで頂ける。誠に懐かしくも有り難いことである。ところで、今年の2月11日「建国記念の日」は、東京では珍しく夜来の雪に見舞われた。神宮の森は降りしきる白雪に被われて森閑と静まり返っていたが、原宿から参宮橋周辺は若者の熱気に沸き返っていた。午前中原宿表参

道周辺において、行われる予定であった恒例の10大学（國學院大学・国士館大学・駒澤大学・専修大学・大東文化大学・拓殖大学・千葉商科大学・帝京大学・明治学院大学・立正大学）の各吹奏楽部による奉祝パレードは、雪のため中止となったが、首都圏各地から集まった10数台の神輿や太鼓の列は、降りしきる雪を物ともせず、勇ましい掛け声を上げながら練り歩いていた。この日は、明治神宮を中心とする、建国を祝う祭りの日として定着したようだ。すっかり有名になった「日の丸神輿」も、この日、ここでしかお目に掛かることはできないが、日本国の誕



奉祝・太鼓



奉祝・日の丸みこし



美しく飾られた日の丸みこし

生を祝うに相応しい姿である。こういった祝祭日としての行事が全国に広まるよう願いたいものである。

ところで、戦後の歴史学において、神武天皇をはじめとする初期の諸天皇は、実在しなかったとする説が盛んである。その代表的なものが津田左右吉氏などの古代史観であり、それは「不合理な記述を含むものは信じられず、歴史を構成する資料としては、認めるべきではない」という立場に立っている。この考え方を極端に押し進めると、不合理な記述を含む我が国最古の史書である『古事記』や『日本書紀』も、歴史を構成する資料ではなく、ましてやその中に含まれる神話なるものは壮大なホラ話であるということになる。日本の神話のみならず、ギリシャ神話や旧約聖書などもすべてホラ話ということになる。しかし、その中には重大な史実の核があることを見逃してはならない。記紀に書かれた神話の世界、それに続く我が国の創生期の伝承は、そのまま実証できない部分はあるが、我々の先祖の精神を形成した伝承として、貴重な文献と言わなければならぬ。まして、その中に書かれている帝記（皇室の婚姻関係等系図的な記事）の所伝は、厳格に伝承されてきた古伝であって、後世の七世紀あたりの造作

だという主張は当たらない。東大総長を務められた西洋史の林健太郎教授も「津田史学及びそれを受け継いだ今日の学者たちが、神武天皇の存在やそれ以後の代々の天皇の存在を否定することは、このような伝承の持つ真実性に背を向けた態度であると言わねばならないであろう。神武天皇について記紀が記す個々の物語が事実でないことは言うまでもないが、『東征』という一つの民族移動が行われ、一人の優れた指導者の力によって大和国家の基礎が築かれたという大きな歴史的事実は到底否定すべくもない」と述べておられる。古代史については、稿を改めて記述する機会もあるかと思われるが、日本の建国神話に関して、近年、韓国や北朝鮮で、それは朝鮮半島に起源を持つものであるという説や主張が歴史家などの間で盛んになされており、日本の歴史教育にとっても憂慮すべき事態となっている。

故名越二荒之助先生も、その遺著とも言える『史実が語る日本の魂』の中で「韓国に造成された高天原故地」と題する注目すべき記事を書いておられる。その概要を紹介すると、日本と韓国・北朝鮮の建国神話にはある程度共通するところもあるようである。朝鮮半島には、古来「檀君神話」が伝えられている。「檀君」とは天帝（桓因）の子（桓雄）のことで、今から約5千年前（韓国では西暦紀元前2333年とされる）、「天符印三個」（日本で言えば「三種の神器」）を持ち、3千人の部下を率いて白頭山（中国と北朝鮮との国境を走る長白山脈の最高峰で、標高2744メートル。朝鮮民族発祥の聖地とされている。）に天降った（13世紀に僧一念がまとめた史書『三国遺事』による）とされ、北朝鮮では、この民族の聖地白頭山を革命の聖地にもしており、日本統治時代、金日成が抗日ゲリラの拠点とし、その山麓に秘密兵営を造っていたとして、8箇所にある営舎が再現され、金正日が生まれたという丸太小屋まで造られて、「聖地巡礼コース」に組み込まれている（金日成らの抗日ゲリラの拠点というのは架空のものであり、当時抗日ゲリラは満洲で戦う力を失い、昭和15年頃からソ連に亡命し、ハバロフスクの北70キロにあるビアク村で、2万人規模の特別旅団を編成して訓練中であり、金日成はその一大隊長、階級はソ連軍の大尉であった。また、金日成の妻・金正淑は、1942年（昭和17年）2月16日に金正日を生んだが、難産で苦しみ、医者にもかからず、ワリーアという老婆が取り上げたと言われている。しか

し、ワリーアは獣医として働いたことはあったが、産婆の免状は持っていないことである）。更に北朝鮮では現在、平壤郊外に壮大な「檀君陵」を建造しているが、1993年（平成5年）に檀君夫妻の骨が発見されたということ、電子常磁性共鳴法による年代測定の結果、5011年前の骨と判明し、金日成の指示により、遺骨を納める陵が創建され、翌年除幕式が行われた。15万坪に及ぶ広大なもので、除幕式には、南の韓国の、檀君教の信徒達も多数参加したということである。そもそも檀君を始祖とする信仰は、南の韓国の方が根強いとも言える。韓国の教育基本法が記す教育の目的は、「弘益人間」の養成である。「弘益人間」は「弘益スル」というのが、檀君の遺訓であり、建国の理想なのである。韓国では10月3日がいわゆる「建国記念の日」であり、「開天節」と称して「四大節」の一つに定めている。韓国各地に檀君を祀る「聖殿」があり、その数は70箇所に及ぶ。

かように、檀君紀元は、西暦よりも2333年古く、今年（平成17年）が4338年ということになる。彼らは半万年の歴史を誇り、神武紀元の倍の古さだと自慢する。しかし『古事記』が書かれたのは、712年、『日本書紀』



が書かれたのは720年である。それに対して、韓国の『三国遺事』は500年後の13世紀初頭にまとめられた。『三国遺事』には、3千人の部下を率い、「天符印三個」を持って白頭山に天降ったことになっているが、その三個とは何と何であり、今どこにあるのか、一切不明である。それに対して、記紀の記述は、詳細であり、天孫邇邇藝命(天津彦火瓊瓊杵尊)は三種の神器(鏡と玉と剣)を持って高天原から高千穂の峯に天降った。この三種の神器は、天皇の地位を現すしとなり、鏡は伊勢神宮の御神体、剣は熱田神宮の御神体として、玉は宮中賢所にそれぞれ奉斎され、今も信仰の対象となっている。一方、彼の檀君王朝は、47代、千五百年で断絶したことになっている(これも実証性・記録性に乏しい)が、日本の天皇朝は、高天原の天

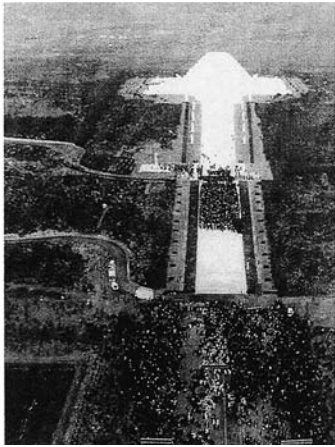
照大神から受け継がれた血統と三種の神器が、現在にまで続いている。これは世界における唯一、例のない国と評価されている。

ところが、終戦の翌年3月、GHQの要請で来日したアメリカの教育使節団が、日本の教育内容を調べて「客観的歴史と神話を分離させること、神話は外国の神話と共に文学として保存すること」を指導したため、以来、日本は自国の建国神話を教えず、それに代わるものとして、中国の古代史である『魏志倭人伝』の邪馬台国・卑弥呼を教え、考古学の研究成果ばかりが強調されるようになり、記紀に書かれた神話を教えないものだから、高天原も天孫降臨も高千穂の峯も知らず、天照大神や神武天皇のような国家形成の主役となった伝承も知らない人が多くなっ

ところ、驚くべきことに、平成11年1月、韓国の慶尚北道高靈邑に、広さ5万坪の「高天原故地」が造成された。多くの韓国人は常に日本人の優位に立ちたいという意識を持っているよ

うだが、日本人の国民意識から高天原が失せてしまった間隙を縫うように、韓国は高天原を造成してしまった。その造成の指導者加耶大学校長・李慶熙博士(経済学)は、記紀の都合のよい所をつなぎ合わせて高天原は高靈邑にあったと主張してやまない。現地には、「高天原居住神之系譜」という碑が建っている。その碑によれば、高天原に住んでいた神々は、すべて韓国人である。その中から日本に天降った神々は、よく分かるように、粹で囲んでいる。更に注目させられるのは、李

総長作の「高天原」と題する巨大な詩碑が造られており、ハンゲルと日本文が刻まれ、「われわれの祖先は、遠くアルタイの地からこの地に移り住み、加耶の国々を創建し、さらに海を渡って今日の日本を築いた」という趣旨のものである。資料的裏付けなしに韓国人はこのように主張し、歴史を捏造してしまうのである。確かに、記紀の時代には、日韓の交流はかなりあった。例えば、「任那」の語は、合計百箇所も出てくる。ところが、日本の記紀や風土記にも、そして、韓国の『三国史記』、さらに国ごとにまとめられた高句麗、百濟、新羅、駕洛等の神話を調べても、高天原が朝鮮半島の一角に降って日本を造ったとも、書かれていない。そういう発想は珍奇で、韓国人にとっては面白い話であるが、文献的裏付けが皆無では、説得力はないのである。



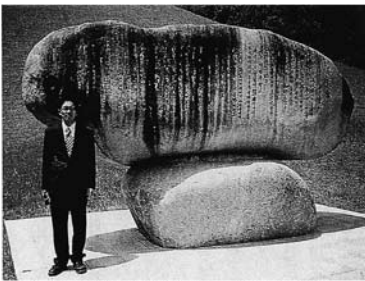
檀君陵に参拝する群衆



高天原公園の中央に建つ「高天原故地」の標識碑と筆者



「高天原居住神之系譜」の碑(右は同行の金東極氏)



李慶熙氏の「高天原」と題する詩碑(左は同行の小林春樹氏)

(飯田正能記)

嗚呼悲惨、惨の極

「3月10日と3月11日」



東京都慰霊堂



退出される高円宮久子妃殿下・承子女王殿下



納骨堂

東京都慰霊協会の資料(戦災焼死者改葬事業始末記)によると、3月10日の東京大空襲の死

自然の災害の爪痕の一端を紹介するものである。



表題の「嗚呼悲惨、惨の極」は、日露戦争関連の軍歌「橋中佐(下)」(鍵谷徳三郎作詞・安田俊高作曲)の一番「嗚呼々々悲惨惨の極／父子相抱く如くにて／共に倒れし将と士が・・・」から借りたものであるが、彼は日露両軍の激戦地・遼陽の会戦における橋大隊長と内田軍曹の獅子奮迅の戦い振り

と戦場の鬼哭、悲惨を詠ったものであるが、これは無辜の市民に対して加えられた無残な戦争の爪痕と荒れ狂う大

3月10日(木)、あの夜の東京大空襲から66年の歳月が経過した。この日午前10時から都立横網町公園(墨田区横網2丁目・関東大震災時の旧陸軍被服廠跡)内の「東京都慰霊堂」において、財団法人東京都慰霊協会主催による、都内戦災遭難者及び関東大震災遭難者の「春季慰霊大法要」がしめやかに執り行われた。

高円宮久子妃殿下と御長女承子女王殿下のご臨席を仰ぎ、石原慎太郎都知事を始め都や区の代表者、被災者や遺

族の代表ら約350名の参列者のほか、数百名の一般参拝者が堂の内外に溢れた。読経の後、石原都知事は「恒久平和と永続的な安全を実現するため、我々は一層努力するとともに、戦争の悲惨さを語り継ぎ、平和な世界を次の世代に引き継いで行かなければならない」と追悼の辞を述べた。この日は、「東京都平和の日」(平成2年制定)でもある。その後、参列者及び一般参拝者の献花・焼香は午後に至るまで延々と続いた。また、この日は、慰霊堂後方の納骨堂が開扉され、身元不明の犠牲者の冥福を祈る献花・焼香者の列も延々と続いていた。

更に、公園内の「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」も、この日は開扉され、水を抜かれた泉の潜橋を渡って碑内の犠牲者名簿(同日現在、第1巻〜第34巻まで、登録者数7万9503柱)を拝観することができたが、身内の名前が記載された巻の前で掌を合わせる人の姿も多く見受けられた。そして今なお、行方不明者は2〜3万名に上るとい

同祈念碑を出て碑の背後の北の空を仰げば、同じ墨田区内向島に建設中の東京スカイツリーが、3月初めに、世界最高塔となる高さ634メートルに達したとかで、春光を浴びて屹立している姿が遠望された。

また、この日は同公園内にある「東京都復興記念館」内で通常の展示品のほか「東京空襲資料展」や「戦災写真パネル特別展」が開催され、多くの写真や絵画、遺品、記録等が展示されていたが、特に今回は、反骨の写真家と

も言われた戦災当時の警視庁警察官石川光陽氏が、大空襲直後に撮影し、戦後GHQからの提出命令も拒否してネガを守り通したという、

夥しい残酷な焼死体や遺体収容の写真は、鬼哭・妖気の迫る感があり、目を覆わしめるものがあった。

者約10万のうち身元不明者は約90%に及び、しかも身元不明者総数8万9430人(当時の35区内)のうち男女の識別可能の遺体は3万817人に過ぎず、残りの5万8613人は識別不能の遺体で、約60%は男女の識別すらできない、黒焦げの死体や焼け崩れてゴミと化した死体が山をなしたという。これらの不明遺体は、被災直後に都内数十箇所公園等に仮埋葬され、その後数年をかけて調査、焼骨して、この慰霊堂に納骨されたという。なお、東京都慰霊堂には、大正12年(1923年)9月1日の関東大震災による都(府)内の遭難死者中身元不



東京大空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑



碑内の空襲犠牲者名簿

明者約5万8千柱と3月10日の東京大空襲を始め、約115回に及んだ都(府)内空襲による戦災死者中約10万5千柱の身元不明者の遺骨が、本堂後ろに併設の納骨堂(三重の塔様式)に納められ、毎年3月10日と9月1日の春季及び秋季の大法要が東京都慰霊協会の主催で厳粛かつ盛大に営まれている。

明けて3月11日(金)、この日筆者は正午から偕行社で開催された「特攻隊戦没者慰霊顕彰会」の、公益財団法人認定後初の定時評議員会に出席し、終わって靖國神社に向かう途中14時46



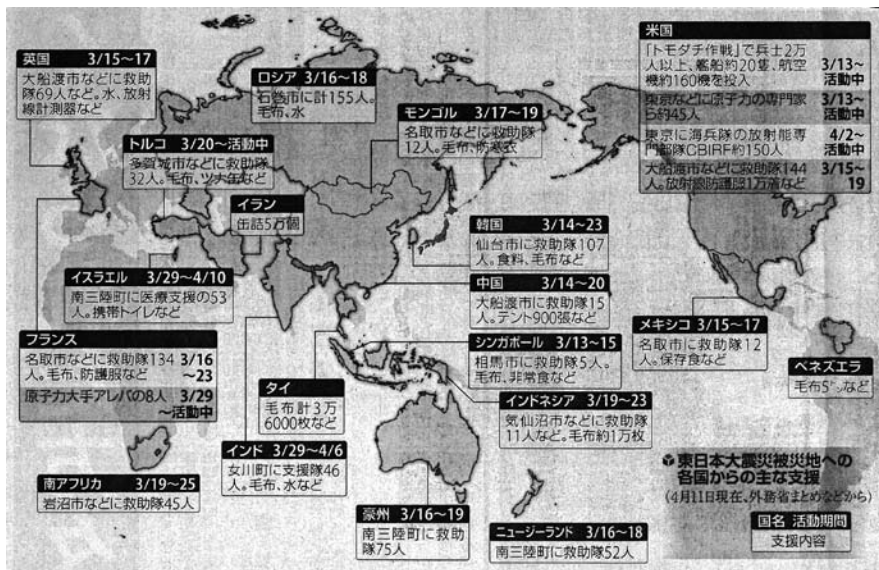
碑の背後に遠望される東京スカイツリー

分、今回の東北関東巨大地震に遭遇した。東京は震度5強の大揺れであった。靖國神社境内は九段地区の避難場所となっており、周辺のオフィス街から社員達が集団で続々詰めかけていた。近くの九段会館講堂の天井が崩落し、卒業式中の観光専門学校生等30数名が負傷し、病院に搬送された重傷者のうち

2名が死亡した。交通、通信は途絶・麻痺し、情報は混乱した。首都圏には通勤避難者が溢れた。それでも深夜に帰宅できた筆者は幸運な方であった。千年に1度というM9.0の巨大地震と最大遡上高38.9m、内陸部への距離5キロ余、浸水域507平方キロにも達する、観測史上最大の津波に襲われた東北・関東太平洋岸の被災地は南北500キロに及び、加うるに福島第一原発の被災による放射能の被害は200キロの広範囲にわたっている。巨大地震発生から18日目、3月29日午前10時現在で警察庁がまとめた被災状況は、死者1万1063人、行方



(2011年3月29日夕刊読売新聞より)



2011年4月12日 (火) 読売新聞朝刊より

不明者1万7258人、負傷者2778人、倒壊家屋15万388戸、避難者約24万5000人で、この数はまだまだ増える予想される。(その後巨大地震発生から約1ヵ月、4月13日午後7時現在で警察庁がまとめた被災状況は、死者1万3392人、行方不明者1万5133人、負傷者約2800人、建物被害21万9555戸、避難者15万3680人となった。)

これらの被災地への救援活動は全国各地から、また米国始め世界の20数箇国から寄せられているが、中でも自衛隊は、予備自衛官6千名を含む10万7千名態勢で陸に海に空に、最も困難とされている捜索、救助、遺体搬送、道路・港湾復旧、架橋、救援物資輸送等多岐の任務に当たっている。中でも原発事故への対処は命懸けの活動である。消防や原発職員等の活動と共に頭の下がる思いである。しかも、自衛隊員や消防隊員等災害救助に当たっている隊員の中にも家族や同僚が死亡及び行方不明となっている者も多く、自衛隊だけでも隊員の死亡2名、行方不明1名、家族の死者は約160名に達しているという。彼等は自らの被災や悲しみにも耐え、使命感に燃えて、未曾有の国難とも言える大災害に当たり、身を賭して被災者・被災地の救援と安全確保のために活動しているのである。

更にその一方で、災害救援活動にのみ注力しているわけにはいかない。このような時なればこそ、テロ対策、領海侵犯等国防対策なども一層重要である。(なお、災害発生後、米軍は逸早く、米韓合同演習のため韓国近海に派遣されていた空母エセックスや揚陸用艦艇等及び沖繩の海兵隊等約2万名の支援部隊と緊急物資を三陸沖に急派、展開して、自衛隊との共同作戦を取った。日米安保体制を基礎に、その絆の強さと見事な即応態勢を世界に見せ付け、危険な周辺諸国の付け入る隙を許さな

かった。その後の大規模捜索活動、仙台空港再開、原発事故支援等で頼もしい「トモダチ作戦」を展開した。)

それにしても、初動における政府や公共機関の危機管理体制の混乱振りには目にも余るものがある。この国難に際して未だに挙国一致体制は取れず、将来の復興への道筋さえ策定できず、右往左往の有様である。政治主導を唱え、有能な官僚の知恵と組織を疎外し、内閣や各省の政務三役等で議論している暇はない。災害や国難に際しての先人の知恵と教訓に学びつつ、一刻も早く国家的対策を取らなければならない。(その後の被災地の状況、救援活動、災害対策、更には再生、復興対策等を注視していても、政府の後手後手の対策、判断の鈍さには、もどかしさを禁じ得ない。かつて自衛隊を軍国主義の復活、税金泥棒と罵り、阪神・淡路大震災の時ですら、自衛隊の救援活動を阻害しようとした政治家や学者が政治の中枢にいる政党や政府、それが表面上は、その活動を称え、それを激励しようとも、心底、それを信頼することができようか、陸海空の自衛隊員のみならず、海上保安官や警察官、消防隊員など、その職務に命を賭けて奮闘している職員、その家族に真実想いを致しているのか。政府は、災害対策や救

### 被災した日本や日本人について 各国首脳らが述べた言葉

米 国	オバマ大統領	我々は日本と共にある。日本人は頑健で精神力がある。日本は必ず復旧し再建すると確信している。米西海岸やハワイ、アラスカ、太平洋の米国領に有害な水準の放射性物質が到達することはない（3月17日、声明で）
	クリントン 国務長官	逆境にくじけない日本の魂の強さは、私たちすべてに感動を与え、輝きを放っている（3月22日、在米日本大使館で記帳）
ロシア	プーチン首相	過去から受け継いだ問題はあがあるが、日本は長年の信頼できるパートナーだ。（液化天然ガスの供給拡大を含め）できる限りの支援を行わなければならない（3月12日、閣僚との会合で）
英 国	キャメロン首相	原発で作業している方々をはじめとする日本の皆さんの勇気は、日本の偉大さの表れだ（3月22日、在英日本大使館で記帳）
フランス	サルコジ大統領	世界が日本に対して連帯、寛大の気持ちを示す時だ。日本は一人ではない。今のところ、原子力に代わるエネルギーはない（3月31日、菅首相との共同記者会見で）
ドイツ	メルケル首相	（福島第一原発事故により）科学的には有り得ないとしか思えないことが、実際に起こり得ることが示された（3月14日、記者会見で）
中 国	胡錦濤国家主席	中国国民は苦痛を我が身のこのように受け止めている。引き続き必要な支援をしていく（3月18日、丹羽宇一郎・駐中国大使との会談で）
韓 国	李明博大統領	日本が早く復興することを確信し、最も近い隣人としてともに歩む（3月18日、在韓日本大使館で記帳）
インド	シン首相	インドのあらゆる資源を使ってほしい。できる支援があれば何でも言うてほしい（3月23日、菅首相との電話会談で）
イスラエル	ネタニヤフ首相	日本は全力で被災地の復興を成し遂げると確信している（3月22日、国会演説で）

2011年4月10日読売新聞朝刊より

濟支援、再生・復興計画の策定などで20余の会議を設け、政治主導を標榜して、政治家や学者・評論家などを集め、議論しようとしているが、いたずらに選挙目当ての自己宣伝の場としてはないだろうか。臨機即応の判断と対処をすべき司令塔が林立し、混乱を来している。

このような中にあっても、国内外から寄せられる救援と声援は誠に有り難く、頼もしい。また、海外メディアの伝える被災地、被災者の規律ある行動と助け合いの姿、日本人の心、資質を賞賛している記事を多く見掛けるのは嬉しいことである。アメリカのオバマ大統領を始め、各国首脳らが被災した日本や日本人について述べた言葉も、古き良き伝統を保持する日本と日本人に対する、賞賛と激励の言葉として有り難く受け止めた。

また、政府の指示を受けずとも、各地方自治体が発動的に行った避難者の受け入れや職員等の派遣、物資の輸送その他の救援活動も、伝統的な助け合いの精神、和の心を示すものとして頼もしい思いである。

ただ気になるのは、このような大震災に当たって、「想定外」という言葉をよく耳にするが、今回のM9.0の巨大地震や大津波発生メカニズムについて、ドイツの科学者アルフレッド・ウエゲナー（1880～1930）が大陸移動説を創始したのは、おおよそ百年前の1915年のことであり、その後軍事上の必要性もあって、英米の科学者や国の研究機関による大西洋や太平洋の海底調査が進み、特に戦後は敗戦国ドイツが保有していた莫大な火薬を使用しての地震波の調査や膨大な地磁気の調査、地質調査の結果、海底移動説とプレートテクトニクス理論が実証され、巨大地震のメカニズム解明され、同時にそれに対する対策が検討され始めてより、既に30数年を経ている。

日本は世界有数の地震国であり、津波の被災国である。火山性の地震も含めて地球上の地震の約3分の一は日本列島に集中している。特に東北・三陸沿岸のようにリアス式地形に囲まれた地域では、有史以来しばしば津波の被害に遭っている。特に1965年のチリ大地震による大津波の被害は甚大であった。その教訓を生かし、防波堤や港湾施設、公共施設や住宅地造り等、十分に検討して対策を取った地域とそうでない地域との違いが際立った。

日本海溝を始め日本列島周辺海底の地形・地質等の調査はかなり精密に行われているはずである。太平洋プレートが日本列島下に潜り込む海溝周辺での大地震による津波が、しばしば波高10～15メートルを超え、遡上高が30メートル以上に達することは容易に推測されることである。特に港湾施設や公共施設、周辺住宅の建設等については、海底も含めて地形・地質等を十分に調査し、最善の対策を取ることが望ましい。ましてや、放射能等の危険を伴う原子力発電施設は、大量の冷却水

2011年4月10日読売新聞朝刊より



## 平成22年大津島「回天追悼式」に参列して

理事長 藤田 幸生

平成22年11月14日(日)、山口県周南市徳山沖の大津島において、「回天追悼式」が執り行われ、当協会を代表して参列してきましたが、大変に感動しました。

近年、この「回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式」には、協会から参列していませんでした。平成22年に入って、協会から参列する全国の特攻関係慰霊祭について、陸・海軍別、特攻の態様別に分析して、欠けているところがないか見直しをしてみました。その結果、海軍の「回天」関係の慰霊祭には、ここ数年参列していないことが判明しましたので、「回天顕彰会」(高松 工会長) にお願ひして参列することにしましたものです。

徳山や大津島は、私にとって初めての訪問でした。当日11時30分からの追悼式に間に合わせるためには、東京からだと、前日からの行動が必要であったため、夜遅くの新幹線で徳山着、駅前の「ホテルサンルート」に宿泊しました。このホテルは、フェリーの棧橋にも近く便利なところがありました。

当日、大津島の「回天慰霊碑」前での追悼式は、11時30分開始でしたが、早朝7時40分発のフェリー便で島に渡りました。所要時間は約40分でした。島内には昼食をとるところがないとのことだったので、乗船前に、晩秋の夜明けの遅い波止場を、昼食のおにぎりを求めて歩き、やっと乗船所に辿り着きました。幸い、天候は曇り空で、暖かく、風もなく波は静かでした。

船内には、ダークスーツ姿の、それらしい乗客が散見されましたが、顔見知りの方は見当たらず、その中のお一人の方に周辺の島の名前や大津島のことについてお尋ねしたところ、その方は、原田 茂さんという追悼式の世話役のお一人でした。最初の出会いから幸運でした。その後、回天記念館館長の松本さんを紹介され、三人で刈尾港で下船、原田さんの車で島内を案内していただきながら、会場の「回天慰霊碑」のある記念館前まで乗せていただきました。

早朝のフェリー便で島を訪問したのは幸いでした。式典までの間に、島の「回天」関係基地跡を訪ね歩き、次々と来島する参列者と出会い、挨拶を交わすことができましたからです。「おしげさん」の縁者である竹本みゆきさんにもお会いできました。「おしげさん」とは、「回天」の「特攻お母さん」と言われている方です(会報「特攻」第83号35頁以下掲載「追悼「回天」と「おしげさん」参照)。長崎県川棚町にある「震洋」特攻慰霊碑「特攻殉国の碑」保存会事務局長の西村金造様にもお会いできました。皆さん、当協会の会員です。また、回天記念館も時間を掛けて見学することができました。当日は、参拝者に無料で開放されていました。

散策した島内は、美しく紅葉し、基地跡を巡る道端には、野菊や伽羅露の黄色い花が咲いていました。これらは多分、往時と同じように紅葉し、花を咲かせていたことでしょう。物思いにふけりながら道を辿れば、トンネルに入り、それを出たところの突き出た岩場には、コンクリートの発射訓練場跡がありました。トンネル内の舗装された通路には、訓練用「回天」を移送したであろう二本の軌条跡が残っていました。歩いても数十分で廻れる程の狭い空間でした。その狭さは、私にとっても意外な程でした。

追悼式会場の「回天」慰霊碑は、高台にある回天記念館前に、海を背にして建っていました。「回天」の模型と、戦艦「陸奥」の主砲の鋼材を铸込んで造った鐘のある鍾樓を側に置いています。側に立つ旗竿には、謂れのあり

そのような特大の古い軍艦旗が掲揚されていました。

参列者は約400名にも及び、島に溢れる感じでした。正に年に一度の島にとって特別な日なのです。会長など関係者のほか、リボンを着けた御遺族とお孫さんたちが目立っていました。戦友だった方は既に少なくなっているようで、私は、今回は出会えませんでした。衆議院議員の高村正彦元外務大臣のほか、国、県、周南市町村の公的な立場の方、海上保安庁、警察、中学校、報道機関(7社)、山口銀行などの主要企業、全国にある「回天」関係慰霊団体等々、多岐にわたる範囲の代表多数が参列していました。

陸海空自衛隊についても、海上自衛隊からは、小松31空群司令ほか、尾島呉総監代理、四元呉潜水艦基地隊司令、福島201教育航空隊司令などが、また、航空自衛隊からは、防府北基地、南基地から、更に陸上自衛隊からは、防府分屯基地からと、周辺の陸海空自衛隊部隊の指揮官等が制服で多数参列してくれました。心強く、誇らしくさえ感じました。自衛隊による慰霊飛行も実施され、海自小月基地、岩国基地、空自防府北基地の各編隊が上空から式典に参加してくれました。このように、追悼式は極めて大規模でした。



追悼式は、無風温暖な、恵まれた天候の下、地元男声合唱団「メールソレイネ」の「回天追悼の歌」に始まり、山口県知事、周南市長、海自呉総監の追悼の言葉、一同による献花、編隊慰霊飛行、献吟「回天碑」、奉納「回天太鼓」と続きました。「回天太鼓」は、年に一度だけ、この日に演奏するため、島の若い男女が、一年中練習に励んでいるとのこと、気持ちが籠もっていて訴えるものがありました。最後に、高松会長からの挨拶、遺族代表からの挨拶がありました。

高松会長の挨拶は、多数の同期生が戦没されたとのこともあり、慰霊活動



に対する深い心情が語られていて、参列者の心に深く沁み入るものがありました。

式次第にはなかったのですが、数年振りに参列された高村元外務大臣から、この追悼式を永年継続実施される関係者への感謝、慰労の気持ちが入る関係者への感謝、慰労の気持ちが入りました。この言葉は、式典の計画実施に当たって入る地元の人々、「力餅ぜんざい」のお接待などに参加してきた人達には、特に心に響いたことと思われまます。

帰りは、高速艇の臨時便が出るなど、大津島、周南市の地元を挙げてのお接待に感謝して島を離れました。感動の



余韻を感じながら、東京への帰路につきましました。今後とも、特攻隊戦没者の慰霊顕彰活動を継続していこうとの気持ち、改めて強くした次第であります。

(平成22年11月記)





# 都城市特別攻撃隊戦没者 慰霊祭に参列して

理事 笹 幸恵

うらかな春——。そんな言葉が  
びつたりの陽気となった4月6日、私  
は都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭に参  
列いたしました。

慰霊祭会場は、JR西都城駅から1  
キロほど離れた場所にある都島公園  
(旧陸軍墓地)。駐車場から階段を上る  
と、納骨堂まで真つすぐ桜並木が続  
きます。淡いピンク色の桜の屋根をく  
ぐくするようにして、慰霊祭会場へと向か  
いました。

東日本大震災によってあまり報道さ  
れなくなりましたが、都城一  
帯は、新燃岳の噴火と、それに伴う降  
灰の被害が大きかった地域です。幹線

道路を歩いていると、ほとんど気にな  
らないのですが、住宅街の細い道など  
には、今も火山灰が積もったままです。  
街の人に伺うと、今でも火山灰は降り  
続けているとのこと、しかし「東北地  
方の人のことを考えたら、灰ぐらいで  
文句を言っていられません」という言  
葉が返ってきました。震災に遭った

人々はもとより、ここでもやはり、自  
然を恐れ、敬い、また、上手に付き合っ  
ていこうとする日本人の強さを感じま  
した。

さて、会員の皆様には既に申し上げ  
るまでもないかもしれませんが、都城  
には、かつて西飛行場と東飛行場と呼  
ばれる飛行場があり、戦争末期、第百  
飛行団と特攻部隊が配置されていまし  
ました。昭和20年4月6日に出撃した第一  
特別振武隊(林弘少尉以下8名)を皮

切りに、特攻作戦は同年7月1日まで  
続きました。特攻隊員が少なかったた  
め、援護隊からも急遽、特攻隊を編成  
したといえます。この地から発進した  
特攻隊はすべて四式戦「疾風」だった  
ことから、「都城疾風特攻振武隊」と  
呼ばれているとか。この特攻作戦で亡  
くなられた方は、79名でした。

都城市特別攻撃隊戦没者奉賛会  
は、最初の特別攻撃隊が出撃した4月  
6日を毎年慰霊祭の日としています。  
例年300名以上の関係者が参列され  
るとのこと。今年もまた、陸士や少飛  
出身者、また、遺族の方々が多く集ま  
っておられました。

印象に残ったのは、宮崎県陸士第57  
期同期生会代表・緒方英男氏の「追悼  
の辞」です。杖を頼りながらではあり  
ましたが、力強い足取り、「死ぬまで

に満ちていました。  
また、陸上自衛隊音楽隊の演奏も素  
晴らしいものがありました。「若鷺の  
歌」「暁に祈る」などの軍歌が中心。  
艶やかな音色と軍歌の取り合わせが、  
不思議と心地よく耳に響いてきまし  
た。満開の桜は、風に吹かれて花びら  
が雪のように舞い散りました。まるで  
この地に集まった特攻隊員たちの魂が  
震えているような——。

厳かな雰囲気の中で執り行われた慰  
霊祭ですが、しかし、献茶あり、献詠  
あり、更には戦友世代の方々が肩を並  
べての献歌あり、実に心温まるものが  
ありました。私も本会の理事として献  
花をさせていただきました。しかしな  
がら、私よりはるかに若い20歳前後の  
青年たちが、国を想い、国を憂い、そし  
て国を愛し、また家族の幸せを願って  
この地から飛び立っていかれたことを  
思うと、ご供養は一輪の花だけで終わ  
らせてはならないのだと強く感じます。

これから先、戦争を知らない世代が  
更に増えていく中で、私たちは何をど  
う伝えていけばいいのか、試行錯誤は  
続くでしょう。大きな宿題に、改めて身  
が引き締まる思いで帰路につきました。  
最後になりましたが、この度、慰霊  
祭への参列の機会を与えてくださった  
ことに、心より感謝申し上げます。

慰霊を続ける」と、強い意志  
を表明しておられました。そ  
して同時に、子々孫々まで特  
攻隊の慰霊に努めるのが私た  
ち日本人の責務であることも  
添えられました。特攻隊員の  
御霊に対して声高らかに宣言  
されたものと思いますが、そ  
れは同時に、私のような戦後  
生まれの者たちの背中を後押  
しされるような、そんな気迫



世界の共通語となった日本語  
勿体無い「もったいない」

当顕彰会の元会長（昭和57年9月～平成4年5月）故竹田恒徳元宮殿下の御子息竹田恒泰氏（昭和50年生まれ、明治天皇の玄孫。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。同大学法学研究科講師（憲法学）、「特殊憲法学（天皇と憲法）」担当。平成18年、著書『語られなかつた皇族たちの真実』（小学館）で第17回山本七平賞受賞。平成20年、論文「天皇は本当に主権者から象徴に転落したのか？」で第2回「真の近現代史観」懸賞論文最優秀・藤誠志賞受賞。その他憲法、国史、日本神話関係著書多数。「竹田研究会」全国連続講座「日本を学ぶ」講師担当。）の著書『日本はなぜ世界で一番人気があるのか』（PHP研究所）によると、英語になった日本語の中で、歌舞伎、将軍、忍者、盆栽といった日本文化独自のものや、harakiri（腹切り）、karoshi（過労死）、otaku（おたく）、hentai（変態）など日本人を象徴するものとして、とても誇らしいとは思えない言葉が英語に借用されているが、この度、平成23（2011）年3月11日に起きた東北関東巨大地震による大津波はもちろん

のこと、平成16（2004）年12月に起きたスマトラ島沖大地震による大津波の際にも「Asian tsunami」として、「tsunami」という日本語が頻繁に使われたが、使用頻度の高い英語の一般名詞に日本語が借用されるのはどうしてなのか。その理由は、津波を直接言い表す単語が英語には存在していなかったからにほかならない。従来の英語では a seismic sea wave（地震性潮波）又は a tidal wave（潮波、高波）と表記していたが、使い勝手が良くないとか、高潮と津波では破壊力において格段の差があり、警報を出すにも高潮警報と津波警報の区別がつきにくく、両者の混同は危険である等の理由から、一語の確に地震性高波を言い表す日本語の「津波」は重宝な言葉として、英語に借用され、一定の地位を得たものである。日本は地震大国であると同時に津波大国でもある。古来日本人は、地震性高波を示す的確な言葉を用意して、災害に備えていたのである。

「環境との共生」であり、これには人類の深刻な生存問題が掛かっているのであるが、このことを的確に表現する言葉、スローガンが世界の主要言語には見当たらない。その中で、日本人が有史以前から継承してきた伝統的価値観、日本人が育んできた和の心を表す「もったいない」という言葉こそが、自然との調和を表す世界語として最適とされたのである。

以下、前記竹田恒泰氏の著書より、その概要を紹介させていただくことにする。

平成17（2005）年3月、「もったいない」という日本語が環境保全の合言葉として、世界的に知られることになった。これは、国連の「女性の地位委員会」閣僚級会合で、ノーベル平和賞受賞者で、ケニア環境副大臣のワングリー・マタイ女史が演説し、日本語の「もったいない」を環境保全の合言葉として紹介し、会議の参加者と共に唱和したことによる。

「もったいない」という言葉は、「もったいない」といふ言葉は、消費削減（リデュース）、再利用（リユース）、資源再利用（リサイクル）、修理（リペア）の四つの「R」を表している」と解説し、「MOTTAI NA I」と書かれたTシャツを手に「さあみんなでもったいないを言いましょ」と呼び掛け、会場を埋めた政府代表者やNGOの参加者と共に唱和した。更にマタイ女史は、「限りある資源を有効に使い、みんなが公平に分担すべきだ。そうすれば、資源をめぐる争いである戦争は起きない」と主張した。

このように日本語が世界に紹介されることは誠に誇らしいことである。しかも、「もったいない」を世界に紹介したのは、日本人ではなく、ケニア人であったことはより意義深いことである。

なお、英語には比較的近い意味を持つ「waste」があるが、これは「浪費的な、不経済な・無駄な」という意味であり、「もったいない」が持つ言葉の温かさが感じられない。マタイ女史は、日本語の「もったいない」のように、自然や物に対する敬意と愛の意思が込められている言葉が他の言語には見付からず、また四つの「R」を一語で表せる言葉も他には見付からなかったと話している。

我々日本人は「もったいない」という言葉を様々な場面で使用している。「天辞林」（三省堂）によると「もったいない」「勿体無い」は①（有用な人間や物事が）粗末に扱われて惜しい。有効に生かされず残念だ。②（神聖なも

の) おかされて恐れ多い。忌むべきだ。③(目上の人の好意が) 分に過ぎず恐縮だ。かたじけない。④(あるべき状態からはずれて) 不都合だ。不届きだ、ということである。

用例はそれぞれ①が「まだ使えるのに捨ててしまうとはもったいない」「あんな有能な人物を放っておくのはもったいない」「こんな事をしていては時間がもったいない」②が「神前をけがすとはもったいない」③が「御心づかいももったいなく存じます」④が「帯紐解き広げて思ふことなくおはすることももったいなし」『盛衰記』三二六) となっている。

総じて、尊いものや価値のあるものが、穢され、粗末に扱われ、能力が発揮されず、本来あるべき状態から離れているさまなどを惜しみ嘆く気持ちを表す言葉であるといえよう。そしてそのような状態にしないように戒める言葉として「もったいない」を用いており、「もったいない」には、自然や物に対する敬意と愛の意思が込められているように思われる。日本人は、日常生活の多くの場面で「もったいない」と言いながら、物の有り難さに感謝して大切に使い、資源の消費を抑え、不要な物も使い回したり、資源を再利用し、壊れても直して使ってきた。そし

て、それが美徳であると称えてきたのである。

日本人は古来、万物に神霊が宿り、人は大自然の恵みにより生かされていると考えてきた。それが自然への感謝の気持ちとなり、「もったいない」という感覚を持つようになった。大自然を正しく畏れ、利用し、そして調和を図ってきた。日本人の伝統的価値観から派生した日本人の心の在り方が、この「もったいない」という言葉に込められている。一方、キリスト教は聖書で「神は大自然の管理者として人間を選んだ」と教えており、自然観が日本人のそれとは全く異なっている。

ところが、本家本元である現代日本人は、個人主義や拝金主義の垢にまみれ、日本社会は「もったいない」とは程遠い社会になってしまった。「もったいない」の本当の価値を見出して実践しているのはむしろ欧米人なのかもしれない。しかし、「もったいない」が異邦人によって提唱されたことにより、日本人は伝統的価値観を再発見することができた。日本人は、マターイ女史に称賛されるに相応しい感覚を取り戻さなくてはなるまい。

古来、日本民族が信仰してきた神道の価値観によれば、草木一本一本、花弁一枚一枚、そして風や波や霧にまで

神霊が宿ると考える。そればかりか、人間が作った竈や廁にも神霊が宿るとされ、数多くの神々を「八百万神」と称してきた。神道において神とは、主に大自然のことである。このように、日本人は大自然に対して感謝の気持ちを抱き続けてきたのであり、その価値観が「もったいない」の精神の根底に流れているのである。

日本人が物を大切にしてきたのは、物質としての物の価値ではなく、物に神聖性を見出してきたからである。箸や布団、便所などにも「お」という丁寧語を付けて呼ぶのはそのためである。日本の子供は「米を一粒でも食べ残すと目が潰れる」と教えられて育つものだが、これは物質としての米の価値ではなく、神からの贈り物である米の神聖性によるからである。そして現実に、現代日本人の多くは、ご飯茶碗に米を一粒も残さずに食べる習慣を身に付けているのである。

米を一粒も残さない日本人の感覚は、食前の挨拶である「いただきます」に象徴されている。「いただきます」は「ごちそうさま」と並んで、英語などの主要言語に翻訳しにくい言葉であり、日本のアニメに英語の字幕が付く場合、「いただきます」は「Thank you or Im eating」などと訳されている。

敬虔なキリスト教徒が食前に神に祈りを捧げることはあるが、毎回、食事の度に祈りを捧げている人はごく少数で、大抵は無言で食べ始め、食べ終わっても無言である。だが、日本人であれば原則として、食前食後の感謝を口にする。

そして、「いただきます」とは「あなたの命を頂きます」という意味であり、食材そのものに対する感謝の気持ちを表す言葉であるから、キリスト教徒が神に食事を感じるのとも性質が異なる。日本人の伝統的価値観によれば、食事とは、あなたの命を私の命に換えさせていただく、言わば命を交換する儀式なのである。人は生きていく上で、毎日命を摂取し続けなければならぬ。人は自分の力で生きているのではなく、大自然の恵みを頂きながら生かされているのである。

一方、「ごちそうさま」は「御馳走様」と書くことから分かるように、食事を作ってくれた人と食材を生産した人に対する感謝の言葉である。時間の流れの中で言葉は変わってきたかもしれないが、日本人は縄文時代から一万年以上の間、食事の度に食材と料理人に対する感謝の言葉を唱え続けてきたのである。(飯田正能記)

# 空挺作戦を発令した指揮官の苦衷と決断

田中 賢一

## まえがき

ヘリコプターが発達していないで、落下傘降下とグライダーだけで行っていた第二次大戦中の空挺作戦は、発起したら収容できないので、空挺部隊を使う上級指揮官の苦衷は大きかった。その戦例を幾つか挙げてみる。

## 戦例

### ① 我がラシオ空挺作戦

昭和17年4月のことである。我が第十五軍は、ビルマで破竹の進撃を続けていた。イギリスのビルマ軍団も、中国から南下したビルマ遠征軍(中国軍)も、勝ちに乘じた我が軍の敵ではなく、雲南方面と印度方面に分かれて退却しつつある。

この時我が第五飛行集団は、新たに指揮下に入った第一挺進団(落下傘部隊)を使って敵の退路を遮断し、第十五軍の進攻作戦を更に光輝あるものにしようとした。

目標はラシオと決まった。ビルマ公路を雲南方面に退却しつつある中国軍

は、六個中隊の落下傘部隊をラシオに降下させ、一大殲滅戦を展開しようとした。しかし、過早に降下し、地上進攻部隊との提携が遅れると、千名足らずの、しかも軽装備の我が落下傘部隊は、雪崩の如き敵軍に揉み潰されしまうのではないかと、第五飛行集団ではこれをおそれた。なるべく降下時期を遅くして、できれば一昼夜ほどで地上部隊と提携させたい。このような考えに立って、第五飛行集団では4月29日に作戦を決行した。

幸か不幸か、その日はラシオ付近の天候不良で、輸送機の編隊は進入できず、目標近くまで行って引き返した。後から判明したのだが、地上進攻部隊の進出は意外に早く、というか、敵の退却が早過ぎたのか、もしこの時降下していても、敵を逸していた。これは陽の目を見なかつた失敗例だが、使う側が苦慮したことには変わりない。

### ② マーケットガーデン作戦

次は自信をもって決行したが、結果は降下部隊の悲惨な結末になった事例である。

コーネリアス・ライアン著「遙かなる橋」で有名になった連合軍のマーケットガーデン作戦についてである。

映画の題名は「遠過ぎた橋」である。ノルマンジー上陸に成功した連合軍は、ドイツ本国に向かって怒濤の進撃を続けている。1944年9月、正にライン河の攻防に入ろうとしているときのことである。ドイツへ雪崩れ込む緒を掴むため、連合軍の左翼正面では連合空挺軍による大空挺作戦が決行された。アメリカ空挺二個師団、イギリス空挺一個師団、それにポーランド空挺旅団が加わり、前掲のラシオ空挺作戦とは桁違いの規模である。

さて、その中で最も敵中深く投入される部隊は、イギリス空挺師団であつて、この師団は地上の第一線より百キ



アーネームに降着する英空挺師団

口も遠方にあるアーネームの渡河点を確保し、ライン河北岸に橋頭堡を確保するのが任務だった。

師団は、9月17日13時30分、その先頭をもって予定通り降着したが、それから9日間苦戦の連続で、遂に潰滅したのである。

はじめ空挺師団は、奇襲の利を発揮してドイツ軍を圧迫し、アーネームの橋梁を占領したが、ドイツ軍は事の重大さに気付くや、猛烈な反撃を展開した。ドイツ機甲部隊未だ健在であつて、多数の戦車を繰り出し、イギリス空挺部隊を分断したため、橋梁を直接占領していた部隊は全滅してしまつた。天候の不良は空軍の支援を妨げ、後続補給に向かつた輸送機は、ドイツ軍が集中配置した高射砲に、毎日数十機が撃墜されてしまふ。辛うじて投下した物資も、占領地域が狭いためドイツ側に落ちるといふ有様で、状況は刻々悪化した。

アメリカの二個空挺師団は、アーネームより南の方にそれぞれの空挺堡を占領していた。地上進攻軍は、この三つの空挺堡を串刺しにするような格好で突進し、四日目には一番遠方のイギリス空挺部隊と提携する計画だった。ところが、ドイツ軍の抵抗は極めて強く、五日目になってやっと二番目

の空挺堡—アメリカ第八二空挺師団と提携できたが、まだ30キロも南方である。

ライン河北岸に孤立しているイギリス空挺師団は、食無く、弾薬乏しく、負傷者救護の手段も無く、グライダールのパイロットまで銃を執つて戦つたが、総勢1万人の大半を失つた。九日目の夜、師団長以下約2千名が河を渡つて南岸に脱出し友軍に收容されたが、北岸に残つた者は、ドイツ軍の捕虜になつたり、オランダ人に紛れ込んだりして、空挺堡は完全に潰れてしまつた。

イギリス軍総司令官モントゴメリー元帥が、師団長アーカット少将に与えた手紙(日本軍の感状に該当するものか)の中で、師団の健闘を口を極めて賞賛し、

—歳移り、もし一人の男として「私にはアーネームで戦つた」と言える人があつたら、それは偉大な名誉であるに違いない—

とまで言っているが、日本にもよくある「壮烈鬼神を哭かしめる」の類であつて、最高指揮官たるアイゼンハワーや、直接この作戦を発動したモントゴメリーが判断を誤つたことに変わりはない。

「編注・以上の戦例①、②は、既に、

当協会会報『特攻』第82号に、「大なる賭」と題して掲載したものとほぼ同内容のものであるが、本論考では、空挺部隊を使う上級指揮官の苦衷と決断に焦点を置いて論じられているので、そのまま再録したものである。」

### ③ノルマンジー作戦

マーケットガーデン作戦より少し前、同年の6月、連合軍は「史上最大の作戦」という映画で有名なノルマンジー上陸作戦を執行した。

作戦計画を練っている時、コタンタイン半島東側ユタ海岸に上陸する部隊は、海岸から半島内部に進むのに、二、三の狭い土手道しか通行できず、この進路を敵に押さえられると進退きわまり、悲惨な結果になることが予想された。

これを防ぐために、半島内部に空挺部隊を降着させようと企図したが、対空砲火は相当激しいものと思われ、計画当初から議論の分かれるところとなつた。

当面の陸軍総指揮官ブラットレーも、空挺師団長リッジウエーも、その必要性を認め実行可能であると主張したが、空軍総指揮官レイ・マロリーの肚がきまらなかつた。

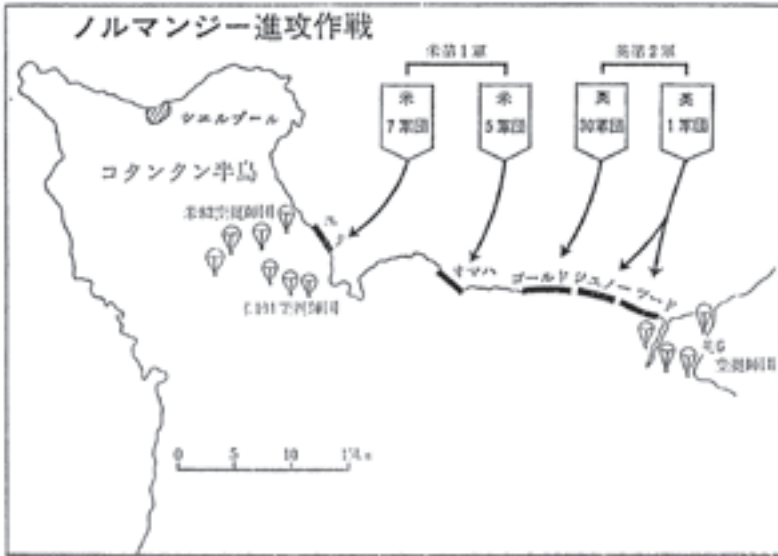
彼は5月30日(決行は結局6月5日となつたのであるが)アイゼンハワーに対し重ねて反対の意見を開陳し、この空挺作戦を強行すれば、降着前にグライダールの70%、落下傘部隊の50%を失い、残存兵力では何ら戦術的な力を発揮できず、空しく数千名を犠牲にするだけであると述べた。

アイゼンハワーは、連合軍最高指揮官であつて、最終的には彼が決断を下さなければならぬ。

ここで、アイゼンハワーは大いに悩んだのであるが、その時の彼の心境が、「ヨーロッパ十字軍」(アイゼンハワーの著書)には次の通り書かれている。

—私は独り自分の宿舎に帰り、腰を下ろして考え込んだ。何度も何度も一段ごとに再検討を加えてみた。もしも彼の勧告を無視し、しかも彼の予想が的中した場合、勿論私は幾千の若い生命をむざむざ犠牲にしたという良心の呵責を、あの世まで担わねばならぬことを承知していた。

しかし、個人的な呵責よりも大切なことは、もし彼が正しかつたとき、惨禍の影響が単に局地的に止まらず、全軍に広まる可能性があるということだった。それにもかかわらず私は、検討の結果問題の中心を次のように狭めていった。



ノルマンジー進攻のため英国の基地に勢揃いしているグライダー

もし私がこの空挺作戦を中止したとするならば、私はユタ海岸の上陸も中止するか、あるいは、上陸部隊を空挺部隊に予想する以上の危険にさらすかの、どちらかを選ばねばならぬ。

もし私がユタ上陸を中止すれば、精密を極めたヨーロッパ進攻作戦の計画は支離滅裂となり、各方面で成功の機会を減じ、かつ後日の補給も不可能と

なろう。

「筆者註・ユタ海岸に上陸することにより、シュールブル港を早期に占領し、この港を使用し兵站線を確立しようとする構想をいう。」

その上、この一大企画全般は、長期にわたって冷静に考慮した揚げ句、われわれはユタ上陸が成功をもたらす不可決の要素であることを確認している

のだ。したがって、これを放棄することは、私が二年余にわたって確信していた計画を放棄することを意味する。

そして最後にレイ・マロリーの推定は、あくまで推定であって、それ以上のもではない。シシリイとイタリアにおける

われわれの経験からすれば、何も彼の悲観論を裏書きするものはない。

ブラットレーは、リッジウエーその他の空挺部隊指揮官と共に、常に私の参謀の考えを支持していた。

遂に私は気を取り直し、レイ・マロリーの考えは誤っているとの結論に到達したのである。――

迷いに迷った揚げ句、世紀の決心に踏み切った心の動きが、真に迫って感じ取られる一文である。

連合軍は、延べ2435機の輸送機と867機のグライダーを使って、最初の24時間に、約1万7千人を空からフランスに送り込んだ。

損失は、43機の輸送機とごく少数のグライダーだけであった。勿論、上陸作戦も大成を取め、「長い一日」とロンメルが呼んだこの日を境に、ヒッ

トラリーの第三帝国は、崩壊の道を急いだのである。

この話は、部下の出した見積もりによって迷った例であるが、次は、新たに入った情報によって迷った事例である。

#### ④ウインゲート空挺作戦

同じく1994年、場所は印度のハイルカンド飛行場。3月5日の夕刻、イギリス第一四軍司令官スリム中將は、ウインゲートの指揮する空挺部隊を見送るため、飛行場の一隅に立っていた。

この作戦は、第二次大戦中の数ある空挺作戦のうちで、最も戦略的色彩の濃いもので、使用兵力は最大ではないが、作戦期間は最も長く、規模雄大であった。

我が第十五軍がインパール進攻作戦を開始した時、それとすれ違いに、我が後方に指向された空挺作戦である。

六個旅団より成るウインゲート部隊及びアメリカ航空コマンド部隊をスリム中將の指揮下に入れ、ビルマのレイル・インダウ地区に、空輸及び行軍によって投入し、次の任務を達成させようとした。

一 日本第十八師団の後方を遮断、擾乱し、スチルウエルの指揮する米

支軍の前進を容易ならしめる。  
二 雲南の中国軍の、怒江渡河とビルマ進入のため有利な状況を作す。

三 北ビルマの日本軍に対し、なるべく多くの損害と混乱を与える。

如何に人口及び日本軍の兵力密度の少ないビルマ戦場とは言え、戦史に見る他の空挺作戦とは違った意味で、なかなか思い切った企てである。

さて、第一次空輸部隊は、二個の発進飛行場から四個の着陸場に向かって飛び立つため、既にグライダーに搭乗を開始している時、滑走路に立っているスリム中将のもとに、一台のジープが猛烈な勢いで走り込んできた。

二人のアメリカ人パイロットが、ジープから飛び降り、まだ半乾きの航空写真をスリム中將に突き付けた。それは2時間前に撮ったピカデリー着陸場の写真で、今からグライダーが着陸しようとする場所に、大木が切り倒されており、明らかに着陸不能であることが判った。

パイロット達は、企図秘匿のため、数日間偵察を控えていたが、今この写真を見て、非常なショックを受けていた。

直接の指揮官であるウインゲートは、中国人によってこの計画が日本側

に漏れ、日本軍は着陸場に伏兵を置き待ち構えているであろうと判断した。彼は頗る興奮してスリム中將に食ってかかった。

そして最後には、上官を睨み付け、「責任はすべてあなたにあります」とまで言った。

真に一大事が起きたわけで、強行か中止か、決心は一にスリム中將にかかっている。この時の彼の心境は、彼の著書『敗北から勝利へ』を見ると、次のように書かれている。

それは私も知っていた。決定の重圧が殆ど物理的圧力のように、私の上のしかかってくるのを感じた。着陸予定時刻は目前に迫っている。機上やその周囲で緊張して待機している大勢の兵士の生命ばかりでなく、全ビルマの我が軍の運命も、私の答如何にかかっているのだ。

その瞬間私は、ウインゲートあるいはその他の誰かが、私の決断の義務を肩代わりしてくれればと思った。

しかしそれは、司令官自身が負わなければならぬ責任だった。もし、私が決行を取り消すか延期したならば、今最高に士気が高揚している人々は、恐るべき反作用を起こし、我々は再び彼らの士気を、同じ頂点に上げることはできないであろう。

そればかりではない。ビルマにおける全作戦も根底から覆ることになる。というわけは、私はスチルウェルに対する(註①)彼の前面にある日本軍の、背後を遮断することを約束し、彼はそれを当てるにしている。

また、既にその地区に進入を開始しているチンディット旅団(註②)のあることも忘れてはならない。

「註①スチルウェルの指揮する米支軍は、北方から日本の第十八師団を攻撃していた。

②チンディット旅団は、空挺部隊と合流するため、2月8日レドを出発、地上からビルマに進入しつつある。我々は、今ま

でこの部隊に対して何の支援も与えない。そればかりではない。飛行機をそのまま飛行場に密集させておいたならば、日本軍はそれを発見し、大変な結果になることも恐れた。



グライダーを曳いてビルマに進攻するウインゲートの空挺部隊



特集

特攻インタビュー（第4回）

陸軍航空特攻

久貫兼資氏

（公財）特攻隊戦没者慰霊顕彰会  
特攻ライブラリー取材スタッフ

「編注・当会では、特攻に関連する事実とその精神を後世に伝承するため、特攻関係者の体験談等を取材し、記録することを企画し、有志会員による「特攻ライブラリー」を立ち上げ、先ず、関係者のインタビュー記事を記録することにいたしました。特攻出撃の如何を問わず、特攻体験をされて九死に一生を得た方、特攻出撃を待機された経験のある方で、映像と写真を含めたインタビュー取材を引き受けて頂ける方がおられましたら、自薦他薦を問わず、当会事務局（担当大澤）までご連絡

当時、私は日本軍がアッサム戦線で、大規模攻勢を企図していることを知っていた（註・インパール作戦のこと）。そして、ウインゲート作戦が、日本軍の新攻勢に対抗できるものと信じていた。とにかく、ピカデリーの妨害を、彼等が我々の計画を知っている証拠である

絡下さい。」

るとは思わなかった。そこには危険はあるが、失敗に繋がるとは考えられず、私は「作戦決行」と声高らかに命じた。結局、ピカデリーを除外して他の三箇所に着陸し、着陸時の衝突による損害はあったが、日本軍の妨害なしに地上行動に移行することができた。

久貫兼資氏軍歴（略歴）

通信省航空局仙台地方航空機乗員養成所 陸軍軍曹 第八飛行師団 誠第四一飛行隊 九七式戦闘機空中勤務者 知覧基地より沖縄北飛行場に進進途中、機体故障のため口之島へ不時着

○特攻ライブラリー取材スタッフ

（五十音順）

- ◇ 及川 昌彦 世話人
- ◇ 神崎 夢現 進行
- ◇ 倉形 桃代 記録
- ◇ 提橋 律子 世話人
- ◇ 須貝 智行 写真撮影
- ◇ 高橋 暢 映像撮影
- ◇ 長尾 栄治 インタビュー・構成



しかし、スリム中将は翌日になって、着陸部隊から失敗の誤報が入り、また心を乱している。当初からまことに波瀾万丈であった。これらのエピソードは、いずれも空挺作戦が唯事でないことを物語っている。大きな賭である。戦争である以上、損害はもとより避

◆軍隊より厳しかった航空機乗員養成所

——通信省の航空機乗員養成所に入學されていますが、もともとは民間のパイロットになりたいというお考えだったのですか？

けることはできない。指揮官たるもの勝利を得るためには、如何なる犠牲も辞さない強い意志が必要である。しかし、そこには収支相償うものでなければならぬ。成功すれば大きな利益を得るが、失敗すればその損失もまた大きいところに難しさがある。

久貫…いや、そうじゃないんですよ。（茨城県）古河に乗員養成所ができた

でしょ（昭和17年4月開所）。それで、勤務奉仕で飛行場を作る作業を手伝ったんです。したらね、聞いてみると、入所したらすぐ飛行機に乗せるというんです。適性のある者だけとって基礎訓練を省くと。その代わりに

身体検査は厳しいんですが、そこに目をつけて入所しましたね、みんな。パイロットになるとか飛行機に乗るといふのは、あこがれというか、夢というか。

久貫…そりゃ、そうですね、ええ。

——古河地方航空機乗員養成所に入所されたのは何年だったのですか？

久貫…昭和18年10月です。



その後、統廃合って言いますかね。仙  
台の養成所にまとめられたわけです。  
それで、仙台の養成所で教育を受けた  
わけです。

——養成所での訓練は、どんな感じな  
のでしょうか？

久貫…やっぱり、軍より厳しかったん  
じゃないですか。養成所が終わり軍隊  
に入ってから満洲の第二四教育飛行隊に  
行ったら、殴ったりすることはないん  
ですよ、禁止になって。

——ただ、養成所じゃ、そんなこと平  
気でしたからね。だから養成所の方が  
よっぽど厳しかったですよ。

——養成所に入ったら、すぐ飛行機に  
乗れたのですか？



九五式三型練習機 (通称赤トンボ)

久貫…乗れなかったです。10月20日に  
入所して…本当は10月1日だったんで  
す。ところが特別操縦見習士官(特操)  
が同じ10月に入ってきました。特操に  
邪魔された形になって、我々の入所は  
10月20日になったんです。

——それで、翌日乗れるのかなと思った  
ら、11月1日になって、初練というね、  
九五式三型練習機という120馬力の  
飛行機に乗せてもらったわけなんで  
す。乗せるって言いましたもね、実は  
空中適性検査なんです。それをね、15  
日くらいやりましたかね。それでまた、  
ふるいにかけてられるんですよ。そして  
喜んでたらね、今度は特操の方に、飛  
行機を全部、持っていかれちゃったわ  
けです。こつちに回ってこないんです  
よ、民間だから。

——それで、グライダーをやることに  
なったんですが、契約違反だつて、教



養成所時代の航空手簿

官・助教に文句言いましたらね、グラ  
イダーも航空機だつてわけです。航空  
機乗員養成所だから文句ないだろう  
と、突っぱねられちゃいましたけど。ね。  
——養成所の教官は民間パイロットの  
方がされていたのですか？

久貫…民間もいたし、軍人もいました。  
所長は軍人です。大佐で。

——養成所の教育は、どのくらい時間  
をかけてやられたんですか？

久貫…結局、古河の養成所で飛行機に  
乗ったのは適性検査で15回乗っただけ  
です。その後、仙台に行きましたから。

——最初はグライダーで、しばらくし  
て練習機に。

久貫…グライダーもプライマリーやつ  
て、セコンダリーまでやりましたけど  
ね。プライマリーなんていうのは学校時  
代にやりましたからね。10mくらいの  
滑走はね。



2等航空士免状

——それで、昭和19年7月に卒業され  
たのですね。

久貫…そうですね。仙台地方航空機乗員  
養成所を卒業というわけです。通信省  
航空局の教育を終了して2等操縦士と  
2等航空士の資格を付与されたわけ  
です。

### ◆満洲の教育飛行隊へ

——卒業後、乙種予備生徒に採用とい  
うことですが、乙種予備生徒というの  
は、どういうものでしょうか？

久貫…高等航空機乗員養成所を出たの  
が甲種らしいんですよ。甲種は将校に  
なるんですよ。で、乙種というのが我々  
でね、下士官になるやつです。昔の、  
いわゆる予備下士官(予備役下士官制度)  
と同じなんですよ。

——卒業したら、そのまま軍隊に入る  
ことになるのですか？

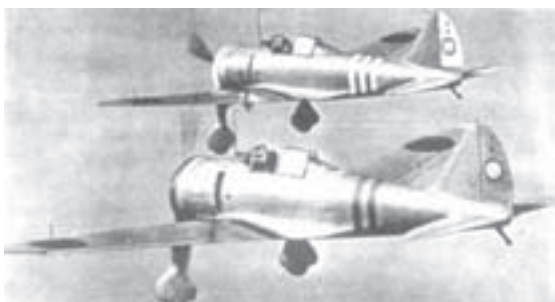
久貫…ええ、そうですね。養成所を出る  
と現役と一緒に、陸軍か海軍に入隊す  
ることになってるんです。予備下士の  
場合はね、養成所を出て、半年、軍隊  
勤務をして伍長になって、予備役にな  
るわけです。私たちは卒業して、7月  
末に入隊して上等兵、兵長となって、  
確か翌年1月に下士官になりました。  
——卒業してすぐ、満洲に移動されて  
いますね。



九五式一型練習機



九九式高等練習機



九七式戦闘機

みましたらた昭和19年後半は、戦局も厳しくなつね、特操よりも多く行つてはありましたか？

久貫…戦訓だのなんだので毎晩、報告を教えますからね。それに、同期、同じ操縦班の者が集まったりすると、「どうだろう」と、いろいろ話をしました。こんなこともありましてね。「日本が押し返して陸にあるが、我々、うまくいけるかな」ということを相談したことがあったんです。それなら、「大体、アメリカ大陸にたどり着くまでに死んでるだろうな」というのが、みんなの実感ですよ。ね。

「俺は絶対、生きてる」と言うのが1人だけでしたけど、その彼は、最後に特攻にまわって、離陸直後の故障で事故死しちゃいましたけどね。

その頃にはフィリピンで、海軍の神風特別攻撃隊が出撃しています。久貫さんは「特攻隊V」というものを実感として感じていましたか？

久貫…仙台にいるときにね、「お前たちは全員、特攻隊の要員だぞ」と言われていたんです。「そうかなあ、みんな、特攻隊行っちゃうのかな」なんて、笑って話したことがありますけどね。

昭和19年のフィリピンの特攻作戦ではね、私たちの操縦教育を教えてください

飛行時間が短くても私たちの方が上手なんです。運動神経が違いますからね。

満洲に派遣された頃、久貫さんはおいくつだったのですか？

久貫…えーと、18歳ですか。

第二四教育飛行隊があった満洲の黒龍江省は、どんな所だったのですか？

久貫…どっち見ても地平線ばかり。白城子からノモンハンまで、ずうっと見渡せちゃうんですよ。

◆特攻隊編成

教育飛行隊で訓練を受けられてい

久貫…赤トンボ（九五式一型練習機）

を終わりますと軍隊に入るんで、兵科ごとに分かれるんですね。戦闘、偵察、軽爆、重爆とあります。で、私たちは戦闘の要員にされたわけです。戦闘は、白城子のちよつと奥にある平安鎮というところへ。そこに、第二四教育飛行隊がありました。これが、戦闘を教育するところだったんです。平安鎮って

いうのは黒龍江省だったと記憶しています。そこへ行ったわけです。

第二四教育飛行隊では、どんな飛行機に乗ったんですか？

久貫…到着した翌日から早速、訓練が始まりました。1日目は高練（九九式

高等練習機）というのに乗せてもら

てね。地形や周りを偵察するために乗せてもらえるわけです。その翌日から自分で乗るわけです。私たちは九七式戦闘機に乗りましたけどね。九七戦の諸元を教えてもらって、それで、はい、行けっていうことで。

満洲では燃料の心配もなく、訓練が進んだそうですね。

久貫…そうなんです。それが良かったんじゃないですかね。私は乗員養成所第14期生ですが、特攻に出撃した同期生がたくさんいるんですよ。それも、

仙台から行った14期が集中的に行つて



と号隊編成式 (第2航空軍司令部)



と号隊編成の頃



第2航空軍司令部にて



と号隊編成の頃

も、あの人は何遍も生きて帰ってきてます。それから、勤皇隊の勝又満とか、何人もね。ニュース映画で知っている顔を見て、「あ！この人も行ったか、あの人も行ったか」って……。養成所出身は随分、行ってますよ。みんな伍長だけど腕は抜群でした。

——第二四教育飛行隊には、どのくらいいらっしやったのでしょうか？

久貫…大体、4ヵ月です。普通、教育飛行隊が終わったら練成飛行隊に行くんですよ。練成飛行隊に行くことだけを楽しみにしていたら、次は第二六教育飛行隊という、やっぱり教育飛行隊なんです。そ

た人たち  
が、かな  
り出撃し  
ていま  
す。例え  
ば、万朶  
隊隊員・  
佐々木友  
次伍長と  
か。彼は  
生きて  
帰ってき  
ただけ  
です。

それで、2月の何日かな…4日か6日ごろ、「と号隊」に転勤を命ずるっていう命令が出たんです。第二航空軍司令官の命令でね。

——「と号隊」というのは、どういう隊なんですか？

久貫…「と号隊」というのは特攻隊のことなんです。だから、「と一号」から、ずうっと一連番号でついているんです。私たちは第八飛行師団に転属を命ぜられたんです。第八飛行師団だと「誠(まこと)」になるんです。それが、第六航空軍になると「振武」になるわけです。それだけが違うだけです。

——隊長の質問の時には、もう特攻だとわかっていましたか？

久貫…大体わかっていましたね。

れでガツクリしたわけですよ。教官・助教だつていっても、下手すると我々よりもあれです。特操なんかから来た教官なんていうのは我々よりも腕が落ちるんです。だから面白くないわけですね。

そしたら、あれは…昭和20年2月の何日ころかな、1月の末だったかな…隊長から一人ずつ呼ばれてね。「南方向に行きたくないか。ここにいたいかわ」という質問を全員にしたんです。大体、ここにいるなんて言った奴はいないですよ。



扶搖隊（と号四一隊）出撃記念（奉天神社にて）  
前列左から2番目久貫軍曹



「扶搖」の鉢巻を締めた隊員たち

従兄弟が学校時代の、今の古河一高っていうんですけど、その人が配属将校だったんです。その人が

「従兄弟（飯沼飛行士）がね、台湾のガラビ岬で死んだんだよ」って、言っていました。そういう、我々から見たら、ものすごい先輩の人ですよ。そういう人でさえ、死んじゃうんですよ。

だから、我々、ペーペー、駆け出しのパイロットが、そんな、いつまでも生きてられるわけねえだろって言っていました。特攻が決まれば、ああ、死ぬか考えなかったです、みんな。大体、国を守るために行ってるんだからね。そのくらいの覚悟は、みんな出来てたと思いますよ。

#### ◆石垣島への移動命令

——新京で特攻隊が編成されて、そこで訓練が行われたのですか？

久貫…いや、訓練は新京なんかでやれないですよ。だって、新京は第二航空軍の管轄で、我々は第八飛行師団に転属を命ぜられたんだから。第八飛行師団に行かなきゃならない。第八飛行師団っていうのは台湾の台北にあるんです。で、そこへ、中隊ごとに爆装して行くわけです。爆装というのは爆弾が吊れような状態にして行くことですね。

——実際に爆弾を積んでいるというわ

——はつきりと、特攻隊員を募集するというわけではなかったのですか？

久貫…では、ないわけです。意向を質しただけです。ただ、もう、これは特攻だと薄々わかっていました。それだけ戦局が行詰っていることは、毎日の戦況報告でわかっていましたし、飛行機乗りはいつか死ぬと腹の中で理解していたからでしょうね。

——それで、久貫さんは「と四一飛行隊附」ということになるのですが、別の場所に移動されたのですか？

久貫…ええ。第二六教育飛行隊だけで

編成されているわけじゃないですからね。第二四教育飛行隊からも教官や助教が入っているわけですから。それが、新京に集まって第二航空軍司令官の指揮下に入って、命令で編成されるわけです。その時、編成されたのが、「と三三」「と三二」「と三九」「と四一」の4個中隊なんです。

——皆さん、飛行機で新京に移動してきたのですか？

久貫…ええ、私はハルビンから新京に飛んだわけです。何時何分に第二航空軍司令部の飛行場に集合という命令だったんです。だから、その時

間になると、平安鎮から来たのも、四平街から来たのも、大体、10秒ぐらいの誤差ぐらいで、ちゃんと集まってくるんです。そういうもんです、飛行機乗りっていうのはね。

——そこで、「と号四一飛行隊」というのが編成されるわけです。隊長以下15名ですね。そして、「扶搖隊」という名前もつけてくれたんです。鉢巻もいた

——「と三三」「と三二」「と三九」「と四一」の飛行隊が結成されて、第八飛行師団に全部、転属という命令が出されたわけです。

——そこで鉢巻をもらったときの心境は、特別のものがありませんか？

久貫…別に、変わったことはないですよ。だって、飛行機……その当時の飛行機はね、あの、同期生の間で話しても、「いつまでも生きていられるわけじゃないよな」ということです。神風号でロンドンに行った飯沼（正明）飛行士という人がいますね。あの人の従兄弟が学校時代の、今の古河一高っていうんですけど、その人が



奉天出撃の日



奉天出撃の日

けでは……。

久貫…わけじゃないんです。いつでも積めるようにするわけです。

——台北に到着した後は。

久貫…第八飛行師団の命令で宮崎県の新田原に移動しました。第八飛行師団の出張所があるからとのことでした。そこから、「と四一」は石垣島へ前進せよというわけだ。各隊、それぞれ命令が違うわけですよ。

——第二四教育飛行時代から久貫さんの乗機は、ずっと九七戦だったのですか？

久貫…そうです。ハルピンから新京に

行つて、新京から今度は奉天に行つて、奉天で爆装して、それから……我々は奉天で爆装したけど、内地で爆装する奴もありましたね。それから太刀洗に飛んでということですね。

——移動も、部隊ごとの編隊飛行ですか？

久貫…もちろん、そうです。移動の間、訓練はどうしたのですか？

久貫…訓練は石垣島に行つてやるということなんです。ところが、我々は、3月27日に知覧に着きました。そこで一泊して、28日に飛び立つんですけれど。その時、すでに、アメリカ軍が慶良間

列島に前進、襲撃かなにかしてしましたよね（昭和20年3月26日、アメリカ軍が慶良間列島に上陸開始）。そういう情報が入ってきたんです。それで、もう、石垣島に行くことないから、そこから攻撃せよと命令変更になったわけです。

◆特攻戦死率が高かった養成所同期生

——先ほど、乗員養成所の同期の方たちが特攻で大勢、戦死されたとおっしゃっていましたね。

久貫…そこに、卒業写真が2枚ありましたでしょ。合計すると193名なんです。そのうち特攻で死んだのが65名なんです。それで出してみても33・8%くらいで一番多いんですよ、死亡率が。

ところが、同じ養成所出身でもね、他の米子とか、熊本とか、都城とか、いろいろあるんですけど、そういうところ、ほとんど死んでないんですね、特攻では。

仙台が北にあったから、みんな満洲へ行つたわけでしょ。で、満洲での教育は飛行時間もかなりあったし、石油も豊富でした。飛行機も2人に1機ずつ割り当てられたことがありましたからね。だから、多いですよ。あるいは、

仕方がないのかもしれないけどね。——特別操縦見習士官や陸軍少年飛行兵と比べても……

久貫…多いんです。特操も32%か33%……でも、33・1か2%のどこだと思えますよ。少年飛行兵になると、さらに少ないですよ。

——一言でパイロットと言っても、予備下士、少年飛行兵、特操、士官学校とか、いろいろな出身の方たちがいたわけですが、気質的な違いとかありましたか？

久貫…それがわかるほどの経験はないですね。だって、一部分しか知らないでしょう。だから、それをもって全体をつかむなんてこと無理ですものね。この間、特操の一期生の飛行時間が出ているのを見たんです。ああ、珍しいなと、それとつといてね、私たちのと見比べてみようと思つたことあるんですけどね。今度は、私たちの方が見つかんないですよ。

——久貫さんの飛行時間は、どのくらい？

久貫…100時間は超えています。間違いない。特攻隊に編成されてからは記録してないですけどね。

——久貫さんが所属された特攻隊「誠四一飛行隊」ですが、結局、特攻隊員として突入して戦死された方は何人？

久貫…5人います。それで、うまいものでね、5人のうち、特操が1名、少年飛行兵出身が2名、下士官学生が1名、養成所が1名……。

——乗員養成所の仲間とか、部隊にいた戦友の方たちとは、戦後、交流は？  
久貫…ずっと続いてました。だけど今は、本当に少なくなっちゃいましたから。もう途切れ、途切れになってますよ。

### ◆沖繩に向けて知覧を出撃

——3月28日の出撃のことに戻るのですが、前日に出撃が命令されたわけですね。

久貫…そうですね。だから、28日は沖繩に前進する途中で、もし、敵の艦船を見つけたら、そのまま突っ込めということなんです。爆弾は持ってないけども、輸送船だったら、それで沈むだろうってわけですよ。最大の目的は基地を九州から沖繩に前進させることでしたから。

——実際、爆弾を抱えずに。

久貫…抱えずに、はい。ただし、7mm機銃弾800発を装填して、敵機と遭遇した時は自力で突破せよとのことでした。

——もし、敵艦船が発見出来なかった場合は。

久貫…まっすぐ沖繩に飛んでいくわけですよ。

——沖繩のどこに進出するという話だったのですか？

久貫…あれはね、北飛行場だったと思いますね。

——それで3月28日に全機が出撃したのですか？

久貫…その時、故障した奴もあるしね。途中で不時着しちゃったのもあるからね。行ったのは11機だったですかね。

——出撃の時、盛大に見送られたのですか？

久貫…知覧を飛び立つ時ね、誰だったかな……将官級の人が出てきて激励しましたけどね。で、恩賜の酒をいた

だいたりして。それで11機だけ出たんですけど、見送りに来てくれた人はずい分おりましたね。その時、知覧の女

学生たちがね……3月27日に初めて勤

労奉仕に出てきたんです。で、一生懸命、手を振って、歓声あげて送ってく

れましたけどね。

その時の、飛行機に乗る私の感想は

ね、この時だけ感じたのはね……いよいよ、これで内地とお別れか、あるいは、もしかすると二度と土を……地球

を踏めないかもしれないなあと思っただらね、非常にね、裸足でね、土を踏み

しめたり、頬ずりしたくなりましたね。

それだけは未だに忘れられませんね。でも皆の前で、裸足で地面に頬ずりするの、いかにも未練がましく格好悪いなあと思ってね。それで、手にツ

バをつける勢いで草や土を触って、ごまかしましたけどね。それぐらいですかね、記憶にはつきり残ってるの。

——沖繩までは当時の飛行機で何時間くらい？

久貫…3時間くらいかかったと思います

すがね。九七式戦闘機の時速は250

kmですから。いや、2時間ちょっとで

行くのかな？

——28日の出撃の時に遺書とかは？

久貫…そんなのは書かなかったね。残

された現金は小川曹長の発案で残らず

国に寄附しました。それに、遺品だの使ったものは全部、整備員に頼んで家

へ送るようにしてもらってますからね。だから、当時の写真とかが、たくさん残っているんですよ。私の場合。

——本や映画だと、特攻隊の出撃の前

夜に酒宴を開いたりするシーンがあるのですが、前夜にお酒を飲んだりとか

されたんですか？  
久貫…した奴もいます。しない奴もいます。  
——久貫さんは、どちら？  
久貫…私はしませんでした。  
——もう、別れはすんだという感じで。

久貫…そうですね。

——宿泊した兵舎は三角兵舎？  
久貫…三角兵舎です。一晚泊まりました。

——知覧の基地跡に三角兵舎を再現したものがありませんけど、枕の位置が正反対だといいますが。

久貫…大体、軍隊で寝るときはみんな、隣りとの枕は正反対です。互い違いに寝るわけですよ。だから別に不思議なことではない。

——離陸してからは、しばらく順調に飛行を？

久貫…離陸して、皆さん、送ってくれたでしょ。上から見るとわかるわけですよ。うわ、随分いるなと。やっぱり、知覧は特攻機が出るから、こうやって、見送ってくれるんだなって。そして、3回、旋回したんですよ。そして

らね、2回目から、その、見送りがね、おかしくなってきたんですよ。バラバラになって、散っちゃったんですよ。もう、解散している感じなんです。送り

送りに慣れているから、離陸したら、すぐ、帰っちゃうのかなって思いました。

この時、15機のうち11機だけが出たんです。あとの4人が、そこにいました

たからね。戦後、話を聞いたらね、空襲警報が出たんだそうです。だから皆、

ワーツと分散しちゃったんですね。で、

そこを飛んでいったわけですね。

海に出てから、皆で試射を始めたわけです。いつ、敵機に遭遇してもいいようにね。そうしたら、もともと潤滑油の漏れが多い飛行機でしたからね。最初のうちは気にしなかったんですけど、馬鹿に多いんですよ、漏れ方がね。おかしいな、おかしいな。そしたら、下からも出てくるのがわかるんですよ。はー、これは困ったなあ、せめて、奄美……もう奄美大島しかないわけですよ、飛行場が。奄美まで持てばなっことでね、持たしてやりたいなっことで飛んでるうちに、もう、口之島(鹿児島県十島村 トカラ列島最北端の島)に来ちゃった。その時、滑圧計を見たらゼロになってるんですよ、油圧が。これはダメだなっということですね、中之島(口之島のすぐ南の島)に不時着するか、口之島に不時着するか迷ったんですけど、口之島の方が着陸する砂浜があるような感じに見えたので、そっちに降りたわけですね。

### ◆口之島に不時着

——その時、不時着して火災が。

久貫…不時着する場合はね、落下タンクというのは落とすんですよ。だけど、ここで落下タンクを落としたり、後で補給が困るだろうし、砂浜の上だから

何とか大丈夫だろうと判断して、落下タンクを捨てないで着陸する決心をしたんです。

ところが、エンジンがブスッ、ブスッといーだして、推力がグンと落ちちゃたんですよ。それで、目的の砂浜の手前を見ましたら、大きな石が、1メートルもあるくらい石がね、ゴロゴロしてるんですよ。しょうがないな、ここへ一回、バウンドさせて、あそこへ降りるかっことで。ところが、砂浜の、そうですね、40〜50mくらい先に船が打ち上げてあるわけですね。その船もよけなくちゃならない。だけど、離陸するんだしたら出来るなっという確信を得ましたからね。で、降りたんですよ。

ところが、最初のバウンドした時に、石と擦れちゃったんですよ、落下タンクが。で、発火しちゃったんですよ。それで、飛行機を丸々、焼いちゃって、こんなザマになったんですけどね。

——発火した後は一瞬ですか？ 操縦席が火に包まれるの。

久貫…いや、結構ね、間がありましたね。それで、もう操縦できませんから。前が真っ赤になってるしね。それで、また、先の石にぶつかった感覚もあつたんですよ。で、もう、これで万事終わりだ、飛行機もダメだからって、目、

瞑ったんですよ。そしたらね、目の前に、おふくろの姿が見えたりしたんですよ……だが待てよ、一人も敵兵を殺してなく死んだんじゃ、何の役にも立たないなと思ってるね。もう一回、やり直そうと決心したんです。

そしたら、面白いもんですよ。そう思ったら、途端に熱いんですよ。それまでは全然、熱くないんですよ。で、そうやって見たらね、手の皮がね、ガラんと下がってるんですよ。まとまって、両手とも、こうやって。で、やっこのことで座席から降りましてね。そこへ、海軍の水兵さんたちが救援に来てくれたわけです。そしたら、今度は機銃弾が破裂しちゃうって、そばに寄れないわけですよ。で、自分で海の中に飛び込んでね、飛行機の火を消してね、それで助けてもらったんですよ。

——両手にヤケドの痕が残っていますか、その時に。

久貫…そう、そう。

——海軍の水兵に助けられた後は、島の病院に入院されたのですか？

久貫…病院なんかありませんよ。海軍の監視隊が20〜30名駐屯してただけです。

——島から内地に基地に戻るの、しばらく時間がかかったんですか？

久貫…これがね、いくら頼んでもね、

あの、連絡してくれないんですよ、監視隊が。これも後でわかったんですけど。第8飛行師団に、久貫軍曹、ここで不時着してるって言ってくれて言ってもね。だから、あの、隊長がね、第8飛行師団かな、報告してるのを見るとね、「久貫軍曹戦死」って出てるんですよ。

で、それを、菊池保夫さんという松本市の人がね、口之島のことを調べた人がそういうことを全部、私の分も調べてくれてね。防衛研究所まで行って資料を送ってくれましたよ。こうなってるよって。

——戦死したことになってるから、報告もしないということなんですか？

久貫…いや、隊長は私が帰って来ないから戦死と確認、認定したんだと思いますね。

——海軍側が、すぐに報告しなかったから。

久貫…しなかった。

——理由はわからないのですか？

久貫…うん。だから誠四一飛行隊は、その後、5月になってからかな……振武隊に転属になってるんですよ。で、私もその時、一緒に転属になってるんですよ。だけど、そのことは、とうとう、戦後になるまで知らなかったんですよ。

——3月28日、11機が飛び立って、久貫さんは不時着という形になったのですが、残りの10機は？

久貫…もう1機はね、戻ったんです。万世に近い浜に不時着してね。飛行機を壊しちゃいましたけど。加瀬曹長という人でした。徳之島近くから戻ったそうです。私もね、口之島に行く前に戻ったら、多分、空襲にあって落とされてたでしょうね。だから、どっちにしても、運のいいところ持つてるよ。うにきてるわけですよ。後で考えてみるとね。

——では9機になるんですか？そのま

ま沖繩に向かったのは。  
久貫…そうです。8機が沖繩の北飛行場に、1機が中飛行場にたどり着いたわけです。それで、翌日の朝4時に空襲を受けて4機だけが飛び立って行ったわけですよ。あとの5機は地上でやられちゃったんです。

——沖繩に到着したパイロットの方たちは全員、戦死されたんですか？

久貫…いや、帰ってきました。高祖少尉、小川曹長、堀口軍曹、大河伍長の4人以外は。地上戦をやりながら奄美大島まで船でたどりついて、島伝いにたどりついて、そこから飛行機で送ってもらったらしいですね。だから、その連中とね、私は、別府の陸軍病院に

いるときに手紙くれましたもんね。こういうことで帰ってきたよってことで。驚きましたね。死んでるとはっかかり思ってた。

### ◆鹿兒島へ

——口之島から、どのようにして内地に帰ったのですか？

久貫…6月になってからですね、6月10日前後かな……。これも調べないとかかりませんけど。私が入院中に細かい書いたのが残ってますけど、それを見ないと分かんないですけど。諏訪之瀬島という島があるんですよ。そこへ不時着した連中がね、漁船を改修して自動車のエンジンくっつけて、諏訪之瀬島、宝島かな？中之島、口之島と渡って来たんですよ。で、口之島に来てね。で、私のことも、じゃあ一緒に乗せて行ってくれてことで、そこで、収容されて行ったわけですよ。

——ところが、口之島と口永良部島……

口之島から口永良部が一番近い島なんですけど、その間が、かなり離れてるんですよ。で、その途中でね、アメリカ軍のグラマン……じゃないな。夜間だからマーチン飛行艇に、上空を旋回されてね、あぶない目に会いました。で、海軍さんもいたんでね。海軍さんの経験でね舟を流したの。エ

ンジン全部止めて。夜光虫が光るんだそうですね。で、流したんです。で、その時の気象状況というのは曇りで雨が降るか降らないかっていうところ。で、方向……星も見えないから、磁石も利かないから、分かんないってわけですよ。

——ところが船を流すとね、この海流は西から東に流れるから、船がどういう形で行くか、そこで、北がどっちだかということが判断できるからって、みんな1時間か2時間、そういう中で寝てね、流してたの。ようやく薄明るくなったところで島が見えてきて、島が見えると思ったら雲だったりね。で、もう一回よく見まして、島が見えると言えば、ああ、今度は本当だということですね。それで、口永良部に着かない時に敵の飛行機に見つかりましてね。寸前ですよ、上陸寸前に。射撃されました。命からがら助かりました。

——その時は海に飛び込んで逃れたのですか？

久貫…いや、もうほとんど同時に島に着いてたんですよ。着いたけど敵の来るのが速いんですよ。

——それで、口永良部にしばらくいて内地へ？

久貫…そうそう。口永良部についてね、

海軍の監視艇が迎えに来るっていう情報が入ってたね。それが入る港が島の北側なんです。そこまで歩くのが大変でした。3月の末から4月、5月……2ヵ月半ぐらい動かないで寝てましたからね。これがもう、介護してくれた軍曹、先輩の軍曹だったんですけどね、都城の助教やった人で、この人も大変だったと思います。名前忘れちゃったんですけどね。

——それで、監視艇に拾われて山川港鹿兒島県指宿市)に入って、そこで医者に見てもらって。で、鹿兒島に着いた途端に、病院……担架が待ってました。で、そのまま入れられちゃいましたね、病院に。そしたら、また、これが傑作なんです。部屋を割り当てられたんです。個室を割り当てられたんですよ。船の事務長が入ってましたね、1人で、もう1人、私が入って2人になった。で、部屋付きの看護婦さんがね、第二四教育飛行隊にいた時の少年飛行兵の妹だったんですよ。稲森さんといいました。よう世話してもらいました。

### ◆陸軍病院

——その頃の鹿兒島は、空襲とか機銃掃射とかはなかったんですか？

久貫…鹿兒島の陸軍病院が野戦病院になり危ないから、別府に転送される時、



天文通りですか。あそこ、かなりやられていましたよ。空襲でやられた死体も何体も見えますけどね。

——当時の陸軍病院では、ちゃんとした治療を受けられたのですか？

久貫…ちゃんとしてました。

——鹿児島と別府の病院で、お体の方も回復されたんですか？

久貫…そうですね。傷を直すだけですからね。だから、こっちとしてはまだるっこいわけですよ。飛行機を操縦出来ないですから。手がね、ここへくっついてたんですよ、みんな。握ったよいうな手。だんだん、引きつってこうなりましたからね。だから、飛行機の操縦なんてとんでもないっていうような両手の状態でした。早く手術して隊に戻りたい。また飛びたいの一心でした。

——陸軍病院には負傷や怪我、病気の兵隊さん達が相当いたんですか？

久貫…おりました。相当、いっぱいでしたよ。

——同じパイロットで負傷した人もいたんですか？

久貫…パイロットで負傷した人とは行き会わなかったですね。鹿児島と別府ではね。

——陸軍病院での生活というのは、どんな感じなのでしょう？ちょっと想像つかないんですけど。

久貫…早く治りたい一心ですものね。

食事…空中勤務者には特別食ができました。ちゃんと治療はしてくれますしね。口之島にいる時は薬もないんですから。海軍さんのヤケドの薬があるんだけども、ちょっと前にヤケドの患者がいて、ほとんど使っちゃったんで無い。で、マシンの油ってのがありま

すね。あれを塗って治療したんですけどね。そのうち、それも無くなつて、船の赤い塗料がありますね。あれを塗られて赤鬼みたいだねって言われてましたもんね。だけど、よく化膿しないで副作用なんかもなくて有り難かったですよ。この程度のヤケドなら、手術すれば元にもどると元気づけられていました。

——別府で療養されてる時に、一緒に飛び立った仲間たちから手紙が来たとおっしゃってましたけれど、戦友が面会に来たとかというのはあったんですか？

久貫…面会はありません。手紙が来たのも一回だけです。菊田という同じ「四一号」隊にいるんですけど、それが、その話を聞いて私に手紙をくれたわけですよ。こうこうやって帰ってきたよってことで。

で、その前にね、別府の病院から、

旅館を借り入れて病棟にした浜町病棟というのに入れられたんですけどね。

別府の港のすぐ隣にある旅館を病棟にした奴です。それで、扶搖隊のマークを、飛行長靴に菊水のマークをつけることに決めていたんです。そして、菊水のマークの飛行長靴が置いてあるじゃないですか。「これ誰？」って聞いたら、加瀬曹長という私と一緒に飛び立った時に万世に不時着した人です。その人が療養してたわけですね。で、その人が、翌日、東京第三陸軍病院に、箱根に転送されると。せっかく会えたのになあつていうことで、私に、いろんな、今まで自分に融通されたものを譲ってくれたんですよ。こういうことはこれに頼め、あれはこう頼め、ついででね。

でも、結局、そういうこと利用しない間に私は山の中の病院…目の治療の必要があったので眼科の病棟に入りましたからね。あんまり、ご利益はありませんでした。

### ◆終戦、復員

——陸軍病院に入院されている間に終戦を迎えたわけですか？

久貫…はい、はい。

——病院で玉音放送をお聞きになったんですか？ラジオ放送を。

久貫…あれはね、別府の山の中の病院で…玉音放送は聞かなかつた…聞いたかな、聞いたけど、わかんなかつたですね。そして、あの、海軍の宣伝の飛行機が飛んできてね。操縦者集まれ、今から特攻…攻撃に出ようっていう宣伝がありました。私も傷だらけだったけど行くかなってことでね、

院長に交渉しに行つたんですよ。そして、お前みたいなケガで何が出来る。院長として退院させるわけにいかないって一蹴されましたけど。考えてみたらそうですね。両手を使えないんですものね。飛行機に乗せてもらつて、上がつて操縦するんだつたら出来るけれども、それまでのことが、考えてみれば出来ないんですよ。

——玉音放送は分からなくても日本が負けたらしいという話が、その後、流れたと思うのですが、戦争が終わったということが分かった時、どんな気持ちでしたか？

久貫…悔しかったのは悔しかったですね、すごく。

——病院の中で騒ぎとかは。

久貫…騒ぎも何にもありませんでしたね。

——久貫さんは、そのまま病院にいらつしたんですか？

久貫…はい、はい。そのまま、おしま

して。その後、秋になってから福岡の第2陸軍病院の方に転属になりましたけどね。そこでも手術は出来ないんですよ。で、結局、手術するために東京の第1陸軍病院に回されましたけどね。そこで、復員したわけですよ。

### ◆運命

久貫…満洲から太刀洗に着いた時、耐寒装備を施したんです。満洲は寒いでしょう。で、内地に来たら暑いから冷却機をつけないと滑油を冷やすことが出来なくなるわけです。それで冷却機をつけてくれたんですよ。それで、その翌日、全機、試験飛行の予定していたら、「B29の空襲がある。太刀洗には今、戦闘隊がない。戦闘隊と名のつくものは誠四一飛行隊だけだから上がって遊撃せよ、制空しろ」という命令が出たんですよ。突っ込む前に空中戦が出来るって、みんな喜び勇んで乗ったわけです。そして、私の飛行機に乗ったんですね、整備してる最中なんです。それで、「もう少し待ってください」と、整備を一生懸命やってるわけなんです。「もう少しで出来ますから、もう少しで上がれますから」と……。

そうしたらね、全機、真っ黒になって降りてきたんですよ。それはね、冷

却機をつけてね、エンジンの間から出ている銃身との関係を点検しなかったのです。特攻隊だから空中戦はやらなれど、戦術上からいって、試射するわけです。で、試射してエンジンの前に冷却機がついてますから……写真を見ていただくとわかりますけども、それを射抜いちゃったんですよ、みんな。だから、真っ黒になって降りてきたわけですよ。で、私の飛行機だけ上がれないでそのままだったんですよ。じゃ、この際だから、よく整備しておいてくれなくて頼んで帰りました。

私の場合は3月28日の本番にそれをやっちゃったんです。だから、それがいいか悪いかわからないんですけどね、今になって考えてみると、ちゃんと整備をやってくれなかったら生きてるわけですよ、考えてみれば。だから、あの時、一緒に上がってたら、私の飛行機も沖繩までスーッと素直に飛んでいけたわけですよ。だから、どんなところで運命の岐路となるか分からないですよ。

その前にハルピンを離陸する時も、自分の好きな飛行機に乗ってわけですよ。それで、私は毎日乗ってるからわかるわけです。どの飛行機が性能がいいか。で、性能のいい飛行機の前に

立つたらね、エンジンをまだくっつけてないんですよ。で、整備の者に「間に合うか」と聞いていたら、「いや、絶対に間に合いません、間に合わせます」というわけですよ。で、しょうがないから、「待ってるから早くやれよ」と言っていて頼んだんですけどね。そして、いつになっても出来てこない、上がらないわけですよ。そして、金剛という幹部候補生出身の少尉が来てね、「久貫軍曹、これ、間に合わないから、他の飛行機に乗った方がいいよ。遅くなっちゃうよ」とってわけで、自分でね、私の道具を持って他の飛行機に取り付けちゃったんですよ。で、それに乗って行ったわけです。結局、そのいい飛行機には間に合わない……乗れなかったんですよ。だから、それも良かったんかなあとも思うしね、分からないんですよ。今になってみれば。

——よく、「軍隊は運隊」という人がいて、運次第だということに回想される方もいますけど、やっぱり、久貫さんもいろんな運が……。

久貫…運が良いんだか悪いんだか、分かんないですけどね。そういうこと後になって考えてみるとね、どうだったんだろうかなって思うわけなんですよ。ね。

### ◆遺された声

——我々、戦争を知らない世代、また我々の子供や孫の世代に、これだけは語り残しておきたいというのがあれば、ぜひ、お聞かせ願いたいと思うのですが。

久貫…あのですね、死んだ人の思いを汲み取ってやってほしいってことです。何のために死んだかね。私は、戦後、アメリカ軍のPXにも勤めたことがありますよ。そこでね、なんでアメリカ兵に負けたんだらうなってことをね、考えたことがありましたね。

ある日ね、私、倉庫係やってたんですよ。英語はたいしたことなかったんですけど、倉庫ぐらいいたら大丈夫だろうって。ボークセル(大量販売)やれって言うわけで、倉庫係とボークセル。そして、ある時、当番兵としてよくやって来るアメリカ兵がしばらく来なかったんでね、「お前、どうしてたんか。しばらく顔見せないけど」と言ったらね、「罰を喰って、草取りやらされてたんだよ」とってわけなんです。「お前、まともに草取りしてたのか」とって聞いたらね、「それは当たり前だろ」と言いましたもんね。そういうことを、「当たり前だよ」とって言えるようなね、アメリカ兵がい

るってことは、アメリカ兵もやっぱり、いいところがあるんだなって思いましたね。

それからね、こういうことも聞いてみました。将校に聞いてみたんですけどね。「アメリカでは、階級は飛行時間に関係ないのか」って。日本では関係ないでしょ。だから、聞いたことがあるんですよ。そしたら、「いや、飛行時間によって階級は変わってくるんだよ」って言われましたけどね。なるほどな、そうすれば、指揮をするのも何をするのもね、飛行時間がやっぱりモノを言うわけですよ。だから、そういうところにも日本の軍隊の、なんて言いますかね、至らなさがあったのかもしれない。やっぱり、アメリカにもアメリカのいいところがあるんですよ。

それからね、会話学校にも行ったんですよ、アメリカ軍のね。基地の中に学校があつて女の先生が教えてくれる授業があつたんです。その時、日本ではね、罰として殴ることを禁止するよな風潮があつた時代ですよ。で、その女の先生に聞いてみたんですよ。「アメリカでは決して子供を殴らないんですか」って聞いたたら、「いいえ、そんなことはありませんよ。お尻はたきますよ」って軽く言われましたもん

ね。だから、ああ、日本とえらい違うんだなって思いました。だから、日本は何でも行き過ぎちゃってるんじゃないんですかね。だから、日本のいいところはみんな捨てて、アメリカの言うなりになってるんっていうのが、何とも気に入らないですよ。いいところを掘り起こして欲しいと思いますよ、今の若い人たちがね。

——久貫さんがおっしゃった「いいところ」「これだけは忘れてほしくない」というのは具体的には？

久貫…うーん、そうですね。あの、「遺された声」(NHK 2004年放送 ※注1)の時に話したことがあるんですけどね。私も軽く考えて声を聞いたんですけど。聞いてましたらね、烈々とは、親のことを想い、両親のことを想いね。それから、兄弟を想いね。それから、国を想いね。ああ、これがあから日本は強いんだなと思いましたけどね。今、そんなアレがないですもんね。

だから、その時ね、ああ、私のしゃべろうと思ってる心と、あんまり足りなさ過ぎるから、何とか、これ、考えなくちゃと思いましたけどね。だけど、その場になって考えるわけにもいかなかったですよ。

——ご自分の戦争体験とか、いろんな方に話されてるんですか、今まで。

久貫…いや、そんなにしません。聞かれたらするかもしれないけど。進んではしてません。だけど、あれですよ。亡くなった戦友のことを考えたら、そういう人の話はしてやりたいと思いますよ。だけど、だんだん、だんだん、忘れていっちゃうんですよ。肝心なことをね。

——テレビでも特攻隊や戦争関係の番組がたくさんありますが、例えば、特攻について、こういうところが勘違いされているんじゃないかと、こういう描き方は直していきたい、直さねばならないというようなことを感じられたことはありますか？

久貫…一番はね、特攻はイイイイ、イイイイされたんっていうことを言われるのが、一番気に入らないです。イイイイで死ににけるはずがないんですよ。自分に納得しなければ。だから、結局ね、今の日本人の一番悪いところは、命懸けでモノをやるってこと

がないってことです。特攻は少なくとも、命懸けで取り組めたことなんです。それが出来ただけで有り難かったかなあとあります。命懸けってことはね。だから、今の人たちが逆に可哀相だなって思いますよ。命懸

けがないんですもの。

だから、あれでしょ。スポーツなんか見ても、がめつく突っ込んでいこうってような人はいないですもんね。適当なところで妥協しちゃってますもんね、みんなね。そんなことだったら、日本民族っていうのは繁栄しないんじゃないですか。伸びていかなんじやないですか。だけど、考えてみると、そういう紆余曲折というのは何にでもあるのかもしれないけども、今の日本の風潮になるのには60年かけてこうなったんですから、これ直すのは大変でしょうね。

——同じくらいの時間か、もっと、かかるかもしれませんね。

久貫…倍も3倍もかかる気がしますね。だって、戦後の教育を受けた親の子供ちつていうのは。その累積が、こういう変な社会になってきたんですもの。だから、直すのは、その親を直し、その親を直し、していかなくちゃならないから、随分かかるんじゃないですか。

——それは、もしかすると我々の世代の役目になるのかもしれない。

久貫…そうかもしれませんね。だから、お前は生きてて、今まで生きてたのに何をやってきたんだと怒られそうな気

がするんです。お前、絶対、死んでもオレの傍に寄せ付けないぞって言われそうですよ。

——あの時代、なぜ、特攻が行われたのか。久貫さんのお考えがあつたら、お聞かせ願いたと思います。

久貫…あのね、経済的に見たら一番安んじやないんですか、特攻隊が。変な話だけでも。それと、もう一つね、あの当時、国を守るっていうことが、いかに大切かっていうことを身にしみてましたもんね。で、今の若い人たち見てね、あの、大丈夫なんか、こんなんで。全然、何て言いますかね、昔の…連中がどうやって、どういう思いで死んでいったかというのが、今の若い人に全然、理解できないんじゃないんですかね。だから、それだけにね、亡くなった人が可哀相な気がするんです。

だから、こう思いますよ。今はね、あの、靖國神社なんかお参りしたり、思い出したりするとね、生きてるお前、一体、何やってたんだって。で、同期生の中で私が一番先に特攻で、最初に出ましたからね。みんな、大いに氣勢あげてくれましたよ。ね。「お前が行ったときに、靖國神社でいい席とついでてくれよ」とかね、「頼むよ」って言う。「どうせ、お前たちが行っただけで、

この戦争終わらないから、俺たちも後から行くけどな、もう、心配せずに行つてこい」なんて。死ぬ気ですよ、最初からね。そういうのが当たり前のようでしたよ。だから考えるとね、そういう連中に行き会つたらね、「お前、今まで生きて何してたんだ、この日本の国の様は何だ」って怒られそうないか」って、「ちゃんと死ね」って言われそうないか」って。

### ◆戦争と欲

——久貫さんの青春時代は、まさしく戦争の時代で、その後は戦後の混乱の時期を乗り越えてこられたと思うんですけども。久貫さんにとって、戦争って何だという…

久貫…戦争って欲ですよ。人の欲。だから、個人、個人が欲を離れればいっていいことですよ。だって、馬鹿げていると思いませんか？動物の方が人間よりも、よっぽどあれですよ、子育てはちゃんとするしね。笑い事じゃなくて、本当、そうでもなんね。動物よりも人間が出来ないんだから。なぜ、出来ないという欲があるんです。やっぱね、考えてみると。だから、戦争が始まるのも欲。今度の金融危機も欲で

しょ？だから、人間がそれを感じない限り、いつになっても戦争争っているのは終わらないんじゃないですか。なくす方が無理かもしれないよ。欲をなくさない限り。

——難しいですよ、欲をなくすというの。

久貫…一番難しいですね。優しいより、一番難しいですよ。

——最近、国防とか、愛国心というのも含めて、いろんなことが議論されています。日本が再び戦争をするか、しないとかが話ありますが。久貫…みんな、その裏に欲があるからですよ、それぞれ。だから、それに気がつかない限り、終わらないんですよ。だから、いつそのこと、戦争やっちゃった方がいいって感じがしますね。殺されちゃった方が、逆に。だって、それが今までのアレでしょ…地球上の掟…成り行きですよ。だから、生半可に平和だ、平和だ、なんてやってくるから中途半端なのがいつぱい出来ちゃって、どうにもこうにもならなくなつちゃうんじゃないですかね。

だから、一番悪いのは坊さんですかね。欲をなくすように協力しないから悪いんです。坊さんも神様もね。

### ◆厳しさを失った日本

——久貫さんをはじめ、当時、18、19歳の若者たちが、国を守ることをすごく大切に思っていたとおっしゃって、そのことを理解するのは難しいと思います。当時の時代背景とかを知らないこともあるので。それで、久貫さんの世代の若者たちが、それほど国を守るということを大切だと考えていた背景として、教育や時代の流れがあつたと思うのですが、久貫さん自身は、どのようにお考えですか？

久貫…あのね、これは今、私が痛切に感じますのはね、日本の今の若者とね、韓国の若者と比較するとね、厳しさが違うんです。顔のね。それはつくづく感じるんですよ。と言いますのはね、私が朝鮮に渡つたのが昭和19年です。その時にね、ああ、韓国人っていうのは、やっぱり間が抜けてんなあ。顔を見て何か足りないところがあるなあ、という感じを受けたんですよ。ところが、現在の若者たちをテレビなんかで見るとね、韓国人の方がよっぽどキリッとしてますもんね。日本人の方がボヤッとしてますよ。国会議員を見たって、何を見ても日本人の方が何か抜けてる感じがするんです。

よ。だから、そういうことがね、今の若い人には、そういうアレがないから、経験がないから、分かんないですよ。だけど、これをね、どう説明していいか私自身もね、分からないんだけど、顔に出てるんですよ。見るだけでね。だけど、よく家内とも話すんだけど、自分の顔も、それだけ随分、下がってるんだらうと思う、って言うんですけどね。

は言えませんが、確かに日本人はどっか抜けてる感じがします。だから、それ、皆さんで検討していただきたいと思うんですけどね。これは私自身の見聞かもしれないけれどもね。自分では偏見ではないように思うんですけど。

ぬんだということだけは確実なんです。だから、自分で自分の責任を取るんだっていうことがありますからね。だから、その点だけは、大丈夫なんだとは思ってますけどね。

※注1・「遺された声」録音盤が語る太平洋戦争」NHK制作  
2004年放送  
編成された「と三」「と三三」「と三九」「と四一」の隊員全員が第二航空軍司令部に集まり、新京放送局員たちによって故郷に伝えたい声を録音した。その録音盤が中国で発見されたが、かなり傷んでいたので聞き取れないところもあり、NHKからの依頼で、「と四一(誠四一)」飛行隊の生き残りである上村、菊田、久貫の三氏が久貫宅に集まって録音を聞き、不明のところを助言した。当時、久貫さんも録音し

で、私はそれをね、日本全体が地盤沈下してるから、自分も一緒に地盤沈下してるから、自分のことは分かんない。若者はさらに、そういうことが、さらに分かんないわけです。そういうことじゃないかなと思うんですよ。だから、私たちが満洲に行った時に、あれですよ、満人たちにしてもね、やっぱり、烏合の衆のような感じがしますもんね。キリッとしてないから。

久貫…そうですね。日本全体が地盤沈下してるから、自分も一緒に地盤沈下してるから、自分のことは分かんない。若者はさらに、そういうことが、さらに分かんないわけです。そういうことじゃないかなと思うんですよ。だから、私たちが満洲に行った時に、あれですよ、満人たちにしてもね、やっぱり、烏合の衆のような感じがしますもんね。キリッとしてないから。

出てくるようにみえて、毎日のように殺人事件がおきてますよね。だから、なにか異常なんですよ。やっぱり教育なんじゃないでしょうか。教育についていうと、そういうものを直に教えるっていう教育を考えるだろうけども……私たちが、操縦教育を受けてね、国のために死ねとか何とかって言われたことがないような気がしますけどね。大体、飛行機に乗って空を飛ぶのには、自分がちょっとハマすると、自分が死

が、残念ながらその録音盤は発見されなかったという。

その時の日本人はどうかっていうと、まあ、自分たちの同期生だけを、飛行機乗りばかり見てるから、キリッとしてたのかもしれないけど、結論づけて言えるかどうかかわからないけども、テレビから見る限りでは、それが言える気がします。だから、厳しさのある顔つてのはどうなんだっていう判定をするとなると、これはちょっと難しいんですけどね。一概に

自分がちょっとハマすると、自分が死

ざいました。

……丁……)



特攻花



久貫兼資氏

### 久貫 兼資（誠四一飛行隊）軍歴

1926年（大正15年）2月	北海道根室市で生まれる。
1943年（昭和18年）10月	逓信省航空局古河地方航空機乗員養成所入所（14期操縦生徒）。
1944年（昭和19年）3月	仙台地方航空機乗員養成所へ転属。
1944年（昭和19年）7月21日	養成所卒業。同日、乙種予備候補生に採用。陸軍上等兵。
1944年（昭和19年）8月	第二四教育飛行隊転属。
1944年（昭和19年）12月	第二六教育飛行隊転属。
1945年（昭和20年）1月20日	任陸軍軍曹。
1945年（昭和20年）2月6日	第八飛行師団に転属。同日、「と号第四一飛行隊」附となる。
1945年（昭和20年）3月11日	新京第二航空司令部で「と号隊」編成。
1945年（昭和20年）3月	奉天から京城を経由して太刀洗に到着。その後、新田原へ。
1945年（昭和20年）3月27日	知覧に前進。沖縄周辺の敵艦攻撃を命じられる。
1945年（昭和20年）3月28日	知覧を離陸するが、エンジントラブルのため口之島に不時着。
1945年（昭和20年）6月	海軍の監視艇に便乗し鹿児島着。その後、別府陸軍病院に転院。
1945年（昭和20年）10月31日	福岡から臨時東京第1陸軍病院に転送。
1946年（昭和21年）10月1日	臨時東京第1陸軍病院を退院。

### 精神復興—心の始末—

会員 石田 一  
（陸航士57期）

平成23年3月11日14時46分に起こった、東日本大震災と称する大地震、それに即刻伴った大津波は、忽ち津波野原を出現させてしまった。そして今、震災復興の大仕事が始まっている。

しかしこのことは、一体、日本国民全体の心の始末、つまり、精神の復興までも含むのであろうか。義援金の拠出、各種のボランティア活動とて、国民の心は動き始めているが、ここで言う精神の復興は、その程度のことによって達成されるものではない。

かつての大東亜戦争敗北の時、大津波ではないが、日本全国津々浦々が焼野原になっていたその時、理不尽の死を前にして、東條大将に次のような言葉があり、大将は心の始末、精神の復興を成し遂げていた。

曰く「三千年もの昔に聖人が現れ、人間のあるべき心の姿、それへの道を説いたにもかかわらず、それが実行されないまま末世の状態となって今日まで来てしまった。自分は情けないが、ここ巣鴨に入って初めてこのことを発見し、つくづく自分が極悪人の凡夫であるということがわかった」と。

しかし、断末魔とも言うべき、あれ程の廃墟に放り出されたどん底の日本国民の多くが、心の始末、精神の復興を逸してしまつた。世界第二位の経済大国にまで物質的経済的の目覚ましい復興をやり遂げた日本人の底力を礼賛する向きもあるが、国民一般の物の考へ方はばらばらであつて、国民の総意を結集して挙国一致の上、国家によつて執り行い、国家として解決して然るべき諸問題が、放置又は未着手のまま山積していることに鈍感になつてゐる現実がある。

外国の知恵が、歴史認識云々として、国史に介入する魔の手を振り切ることさえ出来ず、領土問題に断固たる決着を付け兼ねている、腰の弱さをそのままにしているのである。これらはすべて敗戦当時に全国民一般が、精神復興そのことを遣りそびれたためとは思つてはいない、いや、そう思ひ得ないため、としか言いようがない。

そもそも精神復興として、一体、復興すべき人間各人の精神において、それのどの何がどうなつてゐるからの復興であるのか、つまり、元來、人間各人自己の心の構図すら分かつていないのであるから、手の施しようがないわけである。身体検査によつて肉体の異常を調べ、病巣を発見しているが、精

神検査ということは、犯罪容疑確定のためにあつても、一般人への検査などは皆無である。したがつて、一般国民は、自分は正常人にして、精神作用にさしたる問題はないと思ひ込み、平然としてゐるから話にならない。

人間の精神の構図を知り、それに照らして、自分の精神に如何なる欠落が生じてゐるかの自覚がない限り、精神復興の呼び掛けは、馬耳東風になつてしまふ。では、人間精神の構図とは一体何であるか、極めて簡単で分かりやすいが、内蔵する意味は極端に重く、難解の代物ではある。

曰く「大我と小我の二重構造になつており、小我は本来大我に包まれてあることが真のあり方である。ところが、小我を包んでいる大我なるものが、先覚と言われる少数の人物を除いて一般の人間にあつては、大我が点灯、発光、発動することなく消失してゐるのだとのだとの構図を明確に知る必要がある」と。

点灯、発光、発動する大我に包まれるの小我の持ち主であつて初めて真実正常の人間のあり方であるから、大我消失の小我のみでの人間が人間形成不全であり、したがつて、不健康な精神のため、様々に墮落し果ててしまふことは明らかである。人間は逆境に遭遇

すると、精神に恐れ、悲しみ、怒り、苦しみが起こる。これが実は大我消失を報ずる信号と分かる人は少ない。いや、ほとんど皆無と言ふべきである。

精神復興ということが、単なる生活諸条件の始末を付ける以上に大切な課題であることが、これまでの説明で分かつたことと思う。今回大震災、大津波による津波野原に立つて、悲しみ、怒り、悔やみ、苦しみ、嘆く時、自らの心の始末、精神復興を断じて意図すべきことが了解出来たのではあるまいか。ただし、精神復興が、端的に言つて大我の点灯そのことにありとは

言ふものの、実現は極めて困難である。困難ではあるが、実現を期して起ち上がることは出来る。この際、より多くの日本人が起ち上がることである。起ち上がつてどうするのか。それがこれから述べる国民教育、つまり家庭教育、義務教育を始め、あらゆる教育と称する場における「行(ぎょう)」というあり方の問題である。

「行」は人間各人が大我へ直接向き合え得る真の生活の仕方である。今の教育に最も欠けているものが「行」の実践という、声は小さいが、この際国民一般が不断に「行」を行い、徹底して大我に真向かううちに、各人がこの世のあらゆる物事をより深く見詰め、

見透し、見抜くことが出来てくる。現在不健全な大我抜き心の持ち主になつてゐる多くの日本人は、日本という大衆の如く古くて巨き立派な国家そのものの姿を深く見詰め、見透し得ていないが、「行」の徹底により、大我へ接近することで、日の丸を仰ぎ、君が代を高らかに歌う、真の日本人に更生してゆくのである。国費による正々堂々たる伊勢神宮の式年遷宮実行が可能となり、憲法改正や武装国家の実現すら容易になるのは、火を見るより明らかである。

最後に一言する。曰く「特攻戦没者慰霊顕彰は、単にその行事にて終わることなく、そこに集う全員が国民の精神復興を大目標として、常に起ち上がらねばならぬ」と。

靖國神社に鎮まり給う  
神々

田中 賢一

終戦日靖國詣での若き群れ

十六万を越すたのもしき

神社の談によれば今年(平成22年)

は約16万6千人で、昨年は15万6千人、  
一昨年は15万2千人という。菅総理以  
下閣僚は一人も参拝していない。内閣  
総理大臣は自衛隊の総指揮官ではない  
のか。そんなことで隊員に身の危険を  
顧みず進めと言えるのか。

靖國の宮のみ前に額突けば

我が思うどち数多鎮まる

共に学んだ友、部隊の上官、同僚、  
部下、思えば何十柱か何百柱か、戦熄  
んで65年経つ。

富む春秋国に捧し友垣よ

すまぬ思ひの我がよわいかな

二十代で戦死した同僚や部下を思え  
ばその三倍も四倍も生きてしまった。

みたま祭掲げられたる大提灯

おみなの名前胸迫りくる

毎年新暦のお盆に因んで行われるみ  
たま祭に掲げられる大提灯に、女性名

のものが沢山ある。御祭神の母か妻で  
あろう。永代掲載料を納めれば永久に  
掲載されるので、その人が現在存命か  
どうかわからない。母ならば既に故人  
であろう。何れにしても見つめている  
と、涙を禁じ得ない。

みたま祭聯隊名の大提灯

今戦友はいくたりか存在

聯隊名の大提灯が沢山掲げられてい  
るが、大抵の戦友会は既に解散してし  
まい、僅かに残った戦友が参拝してい  
るに過ぎない。それもやがては無くな  
り提灯だけが残ることになる。

九段坂登りて行けば御祭神

心にかなうこの桜道

井辰勉海軍少尉の遺詠  
靖國の庭に競へる若桜  
我も後れじ散りて開かん

靖國のやしらの前に咲く桜

祀りの神よみそなわせあれ

斎藤幸雄海軍少尉の遺言  
何も思い残すことはありません。た  
だ万歳あるのみです。お母さん、きつ  
と桜咲く靖國神社に来て下さいね。い  
つまでも元気でいて下さい。

靖國の庭に咲きたる桜花

心に叶うかあの散り際が

義烈空挺隊関三郎軍曹の遺詠  
よしや身は千々に散るとも来る春に  
また咲き出でん靖國の庭

散る桜おのがさだめと重なりて

特攻隊の遺詠にあまた

第六十七振武隊 長沢徳治少尉  
来る年も咲いて匂へよ桜花

われなきあとも大和島根に

菊水三号第四昭和隊 佐藤光男少尉

咲きしより散らん桜花の心なれ

散るべき時ぞ今この時

真珠湾攻撃特潜艇長 岩佐直治中尉

桜花散るべき時に散りてこそ

大和心の花と賞めらるるらん

靖國の神とならむと詠いたる

特攻の神ぬさたてまつる

特攻隊員の遺詠に靖國の神となるこ  
とを詠ったものが沢山ある。

第二十振武隊 長谷川真大尉

春まだき九段の花と咲き散りて

勝ちみ戦の基ひらかん

第四十三振武隊 浅川又之少尉

花と散り九段に還るを夢に見つ

敵艦屠らん我は征くなり

第七十四振武隊 大畑寛伍長

さくらさくら若桜今日は散りても

明日は九段の花と咲く

神殿の奥におわすか蒙疆の  
荒野に散りしあの戦友よ

花の都とかけ離れたあの荒野に流し  
た血潮。あれから七十年、險に残る友  
の姿は青春、我は車椅子の扶助で辛う  
じて神前に罷り越した。亡き友の四倍  
も生きてしまった。

靖國の宮居に響く柏手は

御霊を呼ぶか灯またたきぬ

柏手を打って神殿の奥に目を凝らす  
と、なにか靈感を覚える。

わだつみに心残して沈みたる

ますらをの霊今ここにあり

戦場に向かう途中輸送船が撃沈さ  
れ戦死した将兵の魂は陸に上がって、  
今ここに鎮まり給う。

対馬丸殉職せられし学童よ

知るなかりしか靖國の宮

昭和19年8月22日、沖繩の疎開児童  
を乗せた対馬丸が撃沈され、577名  
が殉職した。軍人ならば戦死したら靖  
國神社に祀られることは知っている  
が、学童は知る由もなかった。我々は  
靖國神社に参拝し、御祭神にこのよう  
な学童のいることを思うと涙を禁じ得  
ない。





## 特攻隊を語り継ぐ劇団 「夜想会」

評議員 倉形桃代

4月12日から17日まで、新宿の紀伊国屋ホールで、劇団「夜想会」による公演「俺は、君のためにこそ死ににいく」(原作・石原慎太郎)が上演されます。大東亜戦争末期、陸軍の特攻基地知覧(鹿児島県南九州市)で、軍指定となった富屋食堂を経営する鳥濱トメさんと、特攻隊員・その家族や女学生之魂の触れ合いを描いた物語です。

平成19年の靖國神社における奉納劇、20年の紀伊国屋ホールでの公演に続いて、今年、三度目の上演となります。私と自衛官である夫は、奉納劇の時からのご縁で、今年も基本教練や精神教育等のお手伝いをさせて頂きました。今を生きる若者達が、66年前の人物、特に爆弾を積んで飛行機もろとも敵艦に体当たりする特攻隊員、それを見送った人達をどう演じるのか・・・毎回、興味を持って見えています。稽古

を重ねることに変わって行く役者さん達の心の成長ぶりには、いつも感動を覚えます。皆様の役作りへの取り組みは大変熱心で、鳥濱トメさん役を演じる石村とも子さんをはじめ、知覧まで足を運ばれた役者さんも多かったです。

お稽古の様子を何度か見学させて頂きました。脚本・演出を手掛ける野伏翔監督は、動作の指示をするだけでなく、時代背景や、普段聞き慣れない用語を丁寧にならぬうちに教えながら、ご自身も一緒になって舞台を動き回り、熱い演技指導をされる方です。お稽古場はいつも活気に満ち、緊張感の中にも温かさが伝わってくるという印象でした。

実際に存在した人物を演じるのは、とても難しいことです。ましてや「これから死ににいく」人の心情に自分の気持ちを重ねる事は、若い役者さん達にとって、大変難しい課題だったと思います。

私達は、役作りの一環として、気をつけ・敬礼等、軍人としての基本動作を指導すると同時に、その所作が行われる状況や意味も合わせて伝えました。

戦闘機の操縦席の写真や「と號空中勤務必携」(陸軍が昭和20年5月に作成した、言わば特攻隊員の教本)等の

資料も提供しました。

「と號空中勤務必携」には、特攻を実施する時の心得や攻撃方法が書かれています。私が初めてこれを読んだ時に感動したことがあります。それは「攻撃實施」という項目に、機体の不調・天候不良で引き返さなければならぬ場合の指示があったことです。落胆するな、犬死してはならないという一文と共に「明朗二潔ヨク還ッテ来イ」という記載があり、その際の着陸要領まで指導しているのです。必死の特攻作戦においても、送る側はただやみくも

に「行って死んでこい」と言った訳ではなく「無駄に死んではいけない」という言葉もかけていたという事を、私はこの資料を通して特攻隊員を演じる方々にも知って欲しいと思いました。

更に今回は、特攻隊員役の方々に、遺書を書いて頂きました。書く立場の選択は自由とし「明日自分が死に行くと」という状況設定で、送りたい相手に書く。最後の署名だけは、自分の役名で書いて下さいとお願ひしました。あえてこの課題を出した理由は、死を前提とした遺書を書くことによって、少しでも自分の体験に特攻隊員の方々の人生や心情を重ねて欲しかったからです。

ある方は特攻隊員として、ある方は



知覧・ほたる館前にて  
鳥濱トメ役の石村とも子さん



稽古場での合唱レッスン



「野ばら」を熱唱中の中西少尉と第71振武隊



鳥濱トメさんと美阿子さんの前で  
「アリラン」を歌う金山少尉



指導中の教官・倉形空曹長

公演に寄せて



倉形桃代

本公演の実現を、心からお祝い申し上げます。

戦国史上未曾有の被害をもたらした東日本大震災発生から一ヶ月がたちました。多くの方々が愛する人を失い、住み慣れた家を失い、故郷を遠く離れ避難されています。被災地では今も、不眠不休の救援活動に従事されている方々がいます。

報道で、瓦礫の下から発見された少女の小さなご遺体に細香を手向け、合掌する自衛隊員の姿を見ました。悲報に接するご家族の悲しみに心を重ね涙する姿に、心を打たれました。

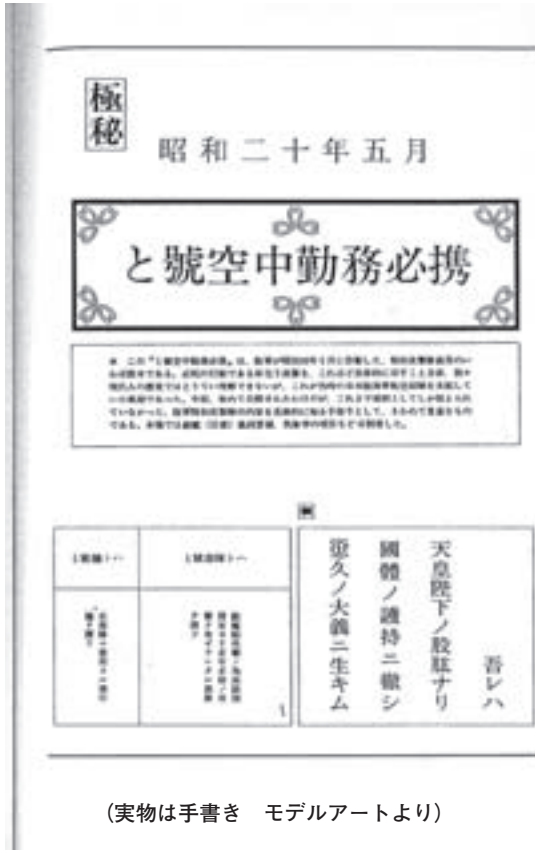
本日も来場の皆様の中には、お身内や知人が被災された方もいらっしゃるでしょう。私の友人達も、現場で頑張っています。自衛官の家族として、友人として応援していますが、彼等の身を案じない日はありません。戦時中の犠牲の方々も、同じ気持ちで戦地の父や夫、兄弟を想っていたと思います。使命感に溢れ、危険を顧みず献身的に尽くす仲間達の姿に、必死の想いで祖国を守ろうとした特攻隊員の姿が重なります。その真摯な姿は、過去に滅亡を交えた米國を動かし、今も壮大な「トモダチ作戦」が日本国で実施されています。多くの国々が、日本を応援してくれています。彼等の友情に感謝しています。我々日本国民も心一つにして、この困難を乗り越えなければなりません。

本公演で語られている、鳥濱とめさんの情しみにく他人に尽くす姿、愛するものを守る為に生命を賭した特攻隊員の崇高な精神は、役者の方々の熱演を通して私達の心に響き、大きな勇気と力を与えてくれると信じます。

今の自分の立場から、真剣な気持ちでご家族や友人・恋人宛てに書きました。

私は「平成の特攻隊員」のメッセージを、母の気持ちになつたり、妻や兄弟の気持ちになりながら読ませて頂きました。胸一杯になり、涙が出ました。これまで幾度も特攻隊員の方々が残された遺書を読みましたが、時を経て、時代が変わっても、死を目前にした時、心に思うことは変わらないものだなあと、つくづく感じました。

主に綴られていたことは、命を授けてくれた両親への感謝の言葉、もっと親孝行したかったという後悔とお詫び、「僕のことを忘れないで下さい」後の事は頼みます」と、残していく人々に託す願いでした。特攻隊員の御霊に「私は貴方達にはなれません。」と告白しながらも「失敗を恐れず、最期の時まで貴方達に寄り添っていた大きながら、生きていきたいです。日本を愛しています。」と書いた方もいました。遺書を書いて、気持ちが引き締まったと仰った方もいましたが、いざ遺書を書くとなると、言葉がフワフワしてしまい、本当の気持ちを書けるだろうかと考えてしまったという感想もありました。考えた末、心に強く残った言葉を筆に託し、血判を押した方もいらつ



(実物は手書き モデルアートより)

しゃいました。様々な想いでペンを走らせたことでしょうか。作文が苦手な方もいたと思いますが、この作業を通して、役者さん達は、自分自身と向き合うという体験をされたと思います。この課題が、役作りにより深みを与える手助けになればと願っています。

お稽古場では、合唱の練習も見学させて頂きました。その日は、声楽家の先生のご指導の下、劇中で歌われる「夏は来ぬ」「ふるさと」「早春賦」「野ばら」「朧月夜」の練習が行われました。表情筋の動きや、動作をつけて歌の膨らみや抑揚のイメージを掴む練習を、何度も繰り返します。この劇の中で、合

唱のシーンは見せ場の一つなので、先生の指導にも熱が入ります。二人の特攻隊長も「野ばら」の後半をドイツ語で歌う場面があるので、一緒に指導を受けていました。

合唱を担当するのは、女学生・奉仕隊の方々です。戦渦の中に流れた美しい歌声が特攻隊員の方々を癒したように、彼女達の合唱も会場に足を運ばれた方々の心に響くことでしょうか。特に「ふるさと」の歌は、東日本震災の被災地で、最初に流れた歌です。卒業式を迎えた学生達や、慰問に訪れた人達が、失われた家や美しかった地元の景色を思い出しながら歌いました。

舞台からの歌声も、復興への祈りと、失われた多くの命の安息、現場で献身的に救援活動に邁進されている全ての方々へのエールとなりますように。

最後に、今回も教官を務めた倉形寛空曹長(防衛省航空幕僚幹部・教育課勤務)の所感を紹介させて頂きます。

◇ ◇ ◇

軍事教練指導担当として今回は自衛隊と違う旧陸軍の制式の指導を行った。異なった部分が多々あるため、教えられる側以上に緊張した教練であった。決していい加減に、あるいは出鱈目に教えることは出来ないからである。

く鍛え、育て上げ、そして特攻兵として失なわざるを得なかった教官達の気持ちの一部が理解できたような気がするのである。彼らは既に、皆自分の息子達である。短期間のうちに育つてくれた息子達を、とても誇りに思う。今回の公演において、この息子達が個々の演技を通して、その心根を多くの観客に伝える事が出来るものと確信する。

**3月26日の陸海軍特攻隊  
合同慰霊祭に参加した劇  
団員たちの「感想文」**

○第47振武隊・荒木隊・加藤伍長役

本田 昂也

(1987年生まれ、愛媛県出身)  
慰霊祭に参加させて頂きありがとうございました。

習技者は、自分の息子とほぼ同い年齢と思われた。当然ながら軍事教練を習う事など初めての俳優ばかりであるが、極めて限られた時間の中で、皆良く覚え、ほぼ正しい動作が出来得るまでに育ってくれた。軍事教練の目的が心身の鍛錬と任務完遂の基礎を作るにあると同様、今回の目的は、個々の俳優が軍人を演じるに当たり、正しい演技が出来るか、自分の演じる人物の魂を抱くことが出来るかであった。幸いなことに、教官である自分の意図することに對し、俳優たちは、皆心えてくれた。自分もまた、育つていく彼らの姿を見て、当時多くの飛行兵を厳し

く鍛え、育て上げた。そして特攻兵として失なわざるを得なかった教官達の気持ちの一部が理解できたような気がするのである。彼らは既に、皆自分の息子達である。短期間のうちに育つてくれた息子達を、とても誇りに思う。今回の公演において、この息子達が個々の演技を通して、その心根を多くの観客に伝える事が出来るものと確信する。

◇

## 御見舞いと御悔み

平成23年3月11日、東北地方太平洋沖において発生した大地震、大津波、及びそれに伴う原発事故による未曾有の大災害（東日本大震災）で被害を被られた皆様に心から御見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い再起・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

また、御家族や親族の方を亡くされた方々に深く御悔みを申し上げますとともに、行方不明の方々の御平安を心よりお祈り申し上げます。

併せて、災害救援と復旧に尽力されている自衛隊をはじめとする各種機関の職員、ボランティアの方々に対し、心より感謝と敬意を表します。

平成23年4月1日

公益財団法人特攻隊戦没者慰霊顕彰会

## 平成22年度事業報告

## 一 慰霊事業

## 1 第31回陸海軍特攻隊合同慰霊祭等

平成22年3月27日午前11時から靖國神社において、合同慰霊祭を斉行さ

○第71振武隊（中西隊） 渡辺伍長役

田端 龍之左

（1988年生まれ、埼玉県出身）  
「特攻隊合同慰霊祭に参加して」

初めての参加で、右も左も分からずでしたが、あの場で、触れている空気に、とても感慨深いものを感じました。ただ、もう少し若い、同じ世代の人達

て」

敵前で緊張感のある雰囲気の中、心に残る貴重な体験をさせていただきました。テレビでしか見たことのなかった靖國神社の御本殿の中に入っただけの参拝や、全員で合唱した「海ゆかば」などは、感極まるものがあった。

も増えるといいなと思いました。当日のスケジュールやパンフレットにあった歌を、なぜこの歌を歌うのかなど、もっと詳しく書いていただけると、僕達でも、より深く知ることができ、また、考えることができるので、より多くの人達が参加し、慰霊の重みや想いを分かっていただけではないかと思えます。

◇

○第71振武隊（中西隊） 野沢伍長役

佐藤 良

（1988年生まれ、東京都出身）

「陸海軍特別攻撃隊慰霊祭を体験し

て」  
をを受け継いで、後に続く子供たちに伝えていかなければならないと感じました。

◇

◇

◇

れた。参加者は、来賓31名、遺族39名、会員等209名、総数279名であった。

慰霊祭終了後、靖國神社境内の靖國會館において、協会の年次総会及び懇親会を開催した。総会において、平成21年度事業実績及び収支決算を報告し、了承を得た。

2 第59回特攻平和観音年次法要

平成22年9月23日、世田谷山観音寺において、同寺と地元駒繫神社との神仏習合による年次法要が営まれた。当協会は例年同様、特攻平和観音奉賛会として、この年次法要に参加し、協力した。年次法要への参加者は、朝からの雨にも拘わらず、来賓28名、遺族29名、会員等214名、総数271名で、例年より若干少ない程度であった。

3 各地慰霊祭への参列等

ア 代表者派遣

(実施月日) (慰霊祭等名)

(場所)

(参列者)

4月3日 鹿屋特攻隊

鹿屋市

小倉評議員

4月6日 都城特攻隊

都城市

藤田理事長

4月6日 子科練雄飛会

靖國神社

小倉評議員

4月7日 徳之島慰霊祭

大島郡伊仙町

藤田理事長

4月11日 荒鷲之碑慰霊祭

空自熊谷基地

藤田理事長

4月12日 万世特攻隊

南さつま市

栗原理事

4月22日 春季例大祭

靖國神社

栗原理事

5月3日 知覧特攻隊

知覧町

藤田理事長

5月24日 春季慰霊祭

千島ヶ淵墓苑

藤田理事長

6月5日 義烈空挺隊

沖繩県

藤田理事長

7月4日 全慰霊協

靖國神社

深山副会長

10月3日 海原会

陸自土浦駐屯地

小倉評議員

10月15日 串良基地出撃

鹿屋市

小倉評議員

10月18日 秋季例大祭

靖國神社

藤田理事長

10月18日 秋季慰霊祭

千島ヶ淵墓苑

藤田理事長

10月25日 神風特攻隊

フィリピン・マバ

飯田評議員

11月14日 回天顕彰会

ラカット市

羽瀨事務局長

11月14日 回天顕彰会

周南市

藤田理事長

イ 供花送達等

(実施月日) (慰霊祭等名)

(場所)

4月7日 海上特攻第二艦隊追悼式

鹿児島県枕崎市

4月16日

出水市特攻碑慰霊祭

鹿児島県出水市

6月8日

黒島特攻平和祈年祭

鹿児島県三島村

10月8日

明野忠魂塔慰霊祭

三重県明野駐屯地

10月10日

原町飛行場戦没者慰霊祭

福島県南相馬市原町区

11月14日

若潮会慰霊祭

靖國神社

ウ 特攻勇士之像奉納除幕式

(実施月日) (奉納場所)

8月15日 栃木県護國神社

(参列者) 藤田理事長

二 「攻勇士之像」建立事業

本年度の「特攻勇士之像」建立事業は、前記の栃木県護國神社へ奉納した1体に止まった。今回の建立で、世田谷山観音寺への建立奉納分を含めて総計9体となった。

現時点において、来年度の千葉県護國神社への建立奉納が決定しているのみで、以降の計画が定まっていない状況であるため、建立促進に関する具体的な方策を早期に策定し推進したい。

三 その他の事業

1 広報事業として機関誌・会報『特攻』第82号～第85号を発行し、会員、協力団体及び希望者等に頒布した。また、ホームページ上で会報『特攻』の最新号が閲覧、出力可能となっている。更に、情報公開の観点から、最新の事業計画及び財務資料等を公開している。

2 出版事業では、平成20年度に刊行し保有している『特別攻撃隊全史』、CD「あ、特攻」及びその他若干の刊行物の頒布を継続している。

四 会員の動向

旧軍関係者等の高齢化による会員の減少が今後とも予想される。平成22年度における当会の新規入会者は76名であり、死亡等による退会者が182名であるため、会員数は差し引き106名の減となり、平成22年度末における会員数は、2670名となった。

会勢拡充事業として、前年度に引き続き、会員各自による入会促進努力、及びホームページ等を活用した加入促進等を実施したが、効果的な成果が現れていないのが現状である。

五 公益法人移行認定

新公益法人制度の施行に伴い、施行後2年間を掛けて移行準備を行ってきたが、平成22年12月22日に内閣総理大臣の移行認定を受け、平成23年1月4日から当会の名称も「公益財団法人特攻隊慰霊顕彰会」として新たに発足することとなった。

平成22年度収支計算書

平成22年1月1日から平成23年1月3日まで

(単位:円)

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 事業活動収支の部, 投資活動収支の部, and their respective sub-items.

財)特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会の平成22年度収支状況等に関し、監査した結果適正であることを認めます。平成23年2月1日

監事 伊集院 雅英 (印)
監事 志賀 昭夫 (印)

事務局からの報告等

寄附者御芳名(敬称略)

(平成23年1月1日~3月31日)

(単位千円)

- List of donors with names and amounts, such as 池田 雅光 五, 飯田 正能 五, 赤柴元五郎 五, etc.

三	酒井 弘義	三	佐藤 尚子	二	星崎 雪	二	柴 末五郎	二	吉田 文堯	二	吉田 学	滋賀県	山内 知己
三	内田 幸治	三	工藤 順三	二	佐藤好之助	二	佐藤 重由	二	矢野 孝男	二	結城 浩	静岡県	坂口 靖
三	氏木 武	三	白田 智子	二	坂本 康子	二	定松 操	二	安河内康彦	二	森田 光弥	岐阜県	伊室 善弘
三	岩見 義信	三	宇井 忠一	二	駒井 剛	二	駒場剛太郎	二	百島 祐信	二	元井 正男	岐阜県	島崎 宗勝
四	中村 家久	四	武谷 孝生	二	河野 三郎	二	古閑カツ子	二	目目澤朗子	二	武藤 一彦	神奈川県	加藤 寛二
五	渡部 利久	五	山本 健雄	二	栗田 孝二	二	桑原アヤ子	二	宮本 了吾	二	箕輪 敏	神奈川県	榊田 俊雄
五	山田 治男	五	森 可成	二	北村 昭正	二	熊野 慎也	二	水野 清	二	丸原 巧	神奈川県	高橋 彦一
五	松本 司	五	松中 義昭	二	川本 修二	二	北村 昭二	二	丸原 巧	二	三浦 晨平	神奈川県	高橋 彦一
五	松下 太郎	五	松浦登士郎	二	川入 明美	二	河村 敏夫	二	松本栄三郎	二	丸橋 安夫	神奈川県	佐藤 正
五	町田 乾郎	五	舟津 辰義	二	川井 孝輔	二	川人 明美	二	星出 寿夫	二	古畑 昭二	神奈川県	刑部 五郎
五	日比野臣三郎	五	日高 誠	二	上嶋 正敏	二	茅野 幸雄	二	平野 勝也	二	福田 充	神奈川県	岡田 春香
五	花塚真知子	五	廿日出昭信	二	小沼 愛	二	加藤嘉之輔	二	秀嶋 定	二	原田 義治	神奈川県	池田 雅光
五	長谷 初恵	五	野上 辰郎	二	尾関 基	二	小貫 達雄	二	原田 太郎	二	原田 義治	神奈川県	池田 雅光
五	西 進	五	中村 竹雄	二	岡本 龍一	二	小川昭二郎	二	服部 義隆	二	林 藤太	神奈川県	大沢久美子
五	中村 栄造	五	中島豊太郎	二	大館 広丈	二	大谷 安信	二	信平 勝雄	二	萩原 健一	神奈川県	池田 雅光
五	中川 香織	五	富永宮之助	二	遠藤 毅	二	大久保武司	二	根木 悦子	二	野上 五夫	神奈川県	池田 雅光
五	角田 和男	五	伊達智恵子	二	上原 富次	二	畝田謹次郎	二	西川 順芳	二	中村 善治	神奈川県	池田 雅光
五	高山 友二	五	伊藤 隆啓	二	岩井 良平	二	植田 和男	二	中溝 二郎	二	長野 博一	神奈川県	池田 雅光
五	霊団体協議会	五	高橋 圭子	二	伊藤 隆啓	二	今井 正己	二	長嶋 澄江	二	長澤 剛	神奈川県	池田 雅光
五	(公財)大東亜戦争全戦没者慰	五	杉本 良員	二	市場 敏司	二	井出野正和	二	伴野 富夫	二	富林 敏雄	神奈川県	池田 雅光
五	重松 源吉	五	澤部 泰	二	石橋 美樹	二	市川 裕彦	二	土橋 猛	二	徳田 裕	神奈川県	池田 雅光
五	古明地正雄	五	久保 巍	二	飯島 厚	二	生田 瑛	二	土田 八也	二	津田 治男	神奈川県	池田 雅光
五	栗原 宏	五	小蘭 力治	二	荒木 精一	二	有川 信男	二	塚本 弘満	二	塚原 成仁	神奈川県	池田 雅光
五	久貫 兼資	五	木村 俊夫	二	尼崎 伊男	二	新井 郁男	二	田中 正和	二	多治見国正	神奈川県	池田 雅光
五	菊池 国光	五	湯澤 一枝	三	湯澤 一枝	三	相部 一正	二	武田 悦光	二	滝澤 勇吉	神奈川県	池田 雅光
五	神奈川県偕行会	三	矢吹 朗	三	山口 二朗	三	茂木 昌三	二	高橋 彦一	二	高田 耕治	神奈川県	池田 雅光
五	岡田 豊	三	片岡 重子	三	三春 仁	三	星埜 清滋	二	千田洋之助	二	高田 耕治	神奈川県	池田 雅光
五	逢坂 龍信	三	大澤久美子	三	樫 孝則	三	星埜 清滋	二	須田 智歩	二	炭竈 三郎	神奈川県	池田 雅光
五	上野 保則	三	内山 正一	三	高梨 久義	三	高橋 房之	二	菅原 道之	二	鈴木 敏	神奈川県	池田 雅光

新入会員名簿(敬称略)

(平成23年1月1日〜3月31日)

御芳志誠に有り難うございました。

一 山本 卓真 一 吉田 若永

一 八木 謙二 一 山根 敏史

一 藤田 幸生 一 牧野 道子

一 中村 猛 一 根木 東洋

一 日高 靖可 一 廣島 文武

一 田澤 昌成 一 田辺さだ子

一 後藤 文夫 一 高尾 昇三

一 河島 慶明 一 國吉 實

一 海田 武 一 川井美保子

一 石井 敏子 一 大塚 喜衛

一 大手 良之 一 小野 蘭二

一 高橋 敏 一 菅原 道之

一 須田 智歩 二 炭竈 三郎

二 高田 耕治 二 高田 敏

二 滝澤 勇吉 二 高田 耕治

二 多治見国正 二 高田 耕治

二 武田 悦光 二 高田 耕治

二 田中 正和 二 高田 耕治

二 塚本 弘満 二 高田 耕治

二 伴野 富夫 二 高田 耕治

二 中溝 二郎 二 高田 耕治

二 西川 順芳 二 高田 耕治

京都府 岡本 幸治  
 大阪府 池田 博義 岩木 鴻  
 大前 繁雄 島村 公男  
 林 昭 樋口二三雄  
 山下 昭夫  
 遠藤 毅 崎島十四夫  
 中川九州雄 中村 太郎  
 三木 圭恵 向井 功  
 村井 健次 大阪府 佐々木親幸 (23・2・18)  
 稲葉 忠温 高根県 曾田 泰民 (22・11・6)  
 奈良県 福岡県 重松 正彦  
 高知県 香曾我部慶教 長崎県 金子 昌功 (22・11・23)  
 福岡県 佐々木百合子 篠隈 光彦 熊本県 内田 修二 (22・10)  
 藤井 孝子 村上 格 鹿児島県 松山 芳正

長崎県 大坪万里子 特攻殉国の碑保存会

◆ ◆ ◆  
**会報「特攻」**  
 ◆ ◆ ◆

(敬称略)

謹んで哀悼の意を捧げます。

北海道 佐藤 和司 (23・2・21)  
 茨城県 沼田 修一  
 埼玉県 本田 定彦 (22・6・24)  
 東京都 谷川 明 (22・7・8)  
 近藤 清秀 (23・1・6)  
 谷 悦男 (22・4・28)  
 野副 直行 (22・11・13)  
 藤田 弘道 (22・10・3)  
 最上 貞雄 (23・2・8)  
 神奈川県 後 勝  
 志岐 次男  
 藤田 和秀 (22・12・1)

富山県 八巻 明彦 (23・2・14)  
 北島 和昭 (22・2・12)  
 土田 裕 (22・12・17)  
 野川 常宏  
 愛知県 遠藤 皚 (23・2・14)  
 滋賀県 中村 豊信 (22・6・22)  
 京都府 米田 信 (23・1・20)  
 大阪府 佐々木親幸 (23・2・18)  
 高根県 曾田 泰民 (22・11・6)  
 福岡県 重松 正彦  
 長崎県 金子 昌功 (22・11・23)  
 熊本県 内田 修二 (22・10)  
 鹿児島県 松山 芳正

会報「特攻」第82号正誤表

次のとおり誤りがありましたので、  
 謹んで訂正し、お詫び申し上げます。

(訂正箇所)

- 38頁1段28行目 誤「操縦か偵察か」
- 正「操縦か偵察か、パイロット不適か」
- 41頁3段8行目 誤「士官」正「予備学生」
- 41頁4段13行目 誤「百里原」正「大井空」
- 46頁2段18行目 誤「加荷重」正「過荷重」
- 47頁2段16行目 誤「桜井兵曹」正「梅本兵曹」

当会会員ご入会のご案内

当会は、先の大戦において、祖国の安泰を願い、家族や大切な人々たちを案じつつ、自らの命を犠牲にして、それらを護ろうとした若い特攻隊員たちの御霊をお祀りして慰霊し、感謝することを目的とする団体であります。

私たちは、彼らからその精神を学び、現在の日本の現況や自分たちの生き方を考え、より良い社会の実現に寄与したいと活動を続けております。ご賛同の方のご入会をお願い申し上げます。

○会の沿革

- 昭和27年5月設立
- 平成5年11月財団法人認可
- 平成22年12月公益財団法人認定
- 初代会長 竹田 恒徳 元宮様
- 二代会長 瀬島 龍三 氏
- 現理事長 山本 卓真 氏
- 会の主な事業
  - ・特攻隊戦没者の慰霊顕彰
  - ・講演会等の開催
  - ・機関誌等の発刊その他

- 年会費
- ・一般会員 3000円
- ・学生会員 1000円

〒105-0014 東京都港区芝2-15-19 TAビル4階  
 (公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会  
 事務局  
 電話 03-5730-1101  
 FAX 03-5730-1101

ご投稿についてのおお願い

ご投稿に際しましては、次の点にご留意くださるようお願いいたします。

- 1 原稿は、手書き、ワープロ・パソコン作成のいずれでも結構ですが、なるべく縦書き、1段17字詰めをお願いします。
- 2 記事の取捨選択、紙面の都合等による一部割愛、修文等については、当会事務局にお任せ願います。
- 3 慰霊祭、行事等の写真がありましたら、なるべく添付してください。
- 4 原稿、写真等は、原則としてお返しいたしません、必要の場合、その旨お書き添えください。
- 5 会報・機関誌、投稿記事等の送付先は、左記の当会事務局宛としてください。

記

〒105-0014 東京都港区芝2-15-19 TAビル4階  
 (公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会  
 事務局  
 電話 03-5730-1101  
 FAX 03-5730-1101